

2023年3月期 決算補足説明資料

これからも、彩る世界をあなたと共に



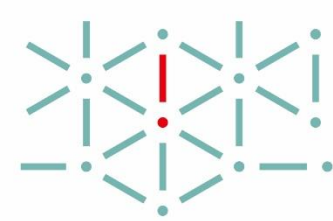
東京インキ株式会社

(証券コード：4635 東証スタンダード市場)

2023年5月15日決算発表

TOKYO ink





目次

1. 23年3月期 連結業績ハイライト 【P2 ~ P5】
2. 23年3月期 通期連結業績予想(23年3月28日公表値)と実績との差異 【P6】
3. 23年3月期 通期連結業績予想(22年5月13日公表値)と実績との差異 【P7】
4. 23年3月期 セグメント別業績サマリー 【P8 ~ P12】
5. 23年3月期 その他連結決算情報 【P13 ~P19】
6. 株主還元 【P20】
7. 次期業績予想 【P21 ~ P24】
8. 中期経営計画 TOKYOink 2024 【P25 ~ P27】
9. 参考情報 【P28 ~ P33】

くらしに豊かな色を

くらしを支える確かな製品をお届けします

1. 23年3月期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)

- ✓ 原材料価格上昇に対応した販売価格改定の進捗により増収となるも、原材料価格やエネルギーコストの上昇を十分吸収することができず、販管費削減等の努力を継続するも営業利益は一転、営業損失となった
- ✓ 米国連結子会社の出資分配益計上等により、経常利益は前年度比で大幅増益、特別損失に減損損失を計上したものの、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度比で増益

	22年3月期	構成比 (%)	23年3月期	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)	業績予想 23年3月28日公表値	増減額	増減率 (%)
売上高	41,401	100.0	43,406	100.0	+2,004	+4.8	43,000	+406	+0.9
売上原価	34,650	83.7	37,544	86.5	+2,894	+8.4	—	—	—
売上総利益	6,751	16.3	5,861	13.5	▲ 889	▲ 13.2	—	—	—
販売費及び一般管理費	6,075	14.7	5,883	13.6	▲ 191	▲ 3.2	—	—	—
営業利益(損失▲)	675	1.6	▲ 21	▲ 0.1	▲ 697	—	▲ 140	+118	—
営業外損益	222	0.5	4,805	11.1	+4,583	—	—	—	—
経常利益	898	2.2	4,783	11.0	+3,885	+432.6	4,600	+183	+4.0
特別損益	45	0.1	▲ 2,034	▲ 4.7	▲ 2,080	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	725	1.8	1,645	3.8	+919	+126.7	1,350	+295	+21.9
ROE(自己資本当期純利益率、単位：%)	2.9	—	6.3	—	+3.4	—	—	—	—
EPS(一株当たり当期純利益、単位：円)	276.77	—	627.47	—	+350.7	—	—	—	—

1. 23年3月期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)

売上高

43,406百万円

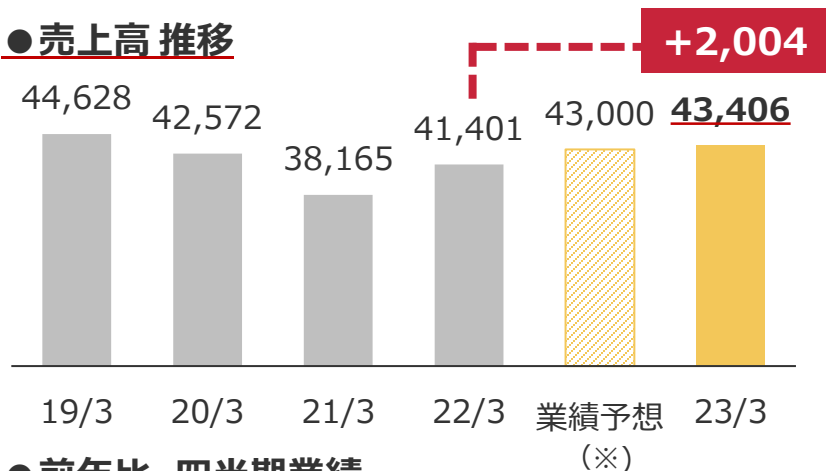
前年比 **+2,004**百万円 (+4.8%)

業績予想比 **+406**百万円 (+0.9%)
(※)

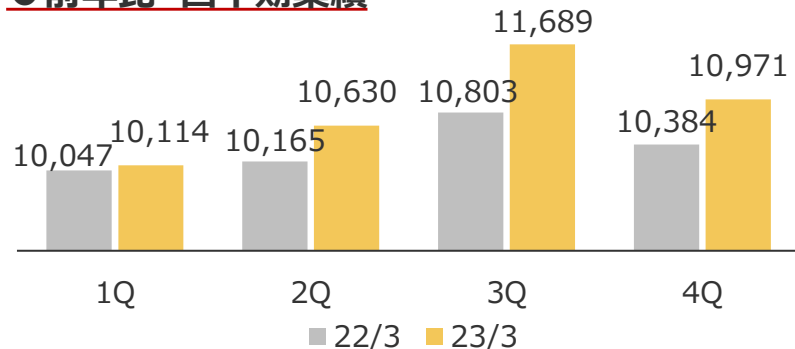
前年比 増減要因

- ✓ 前年度に比べ一部製品の事業環境悪化により販売数量は減少したものの、原材料価格上昇に対応した販売価格の改定が進捗し、増収となった
- ✓ タイ連結子会社等の売上増加も寄与

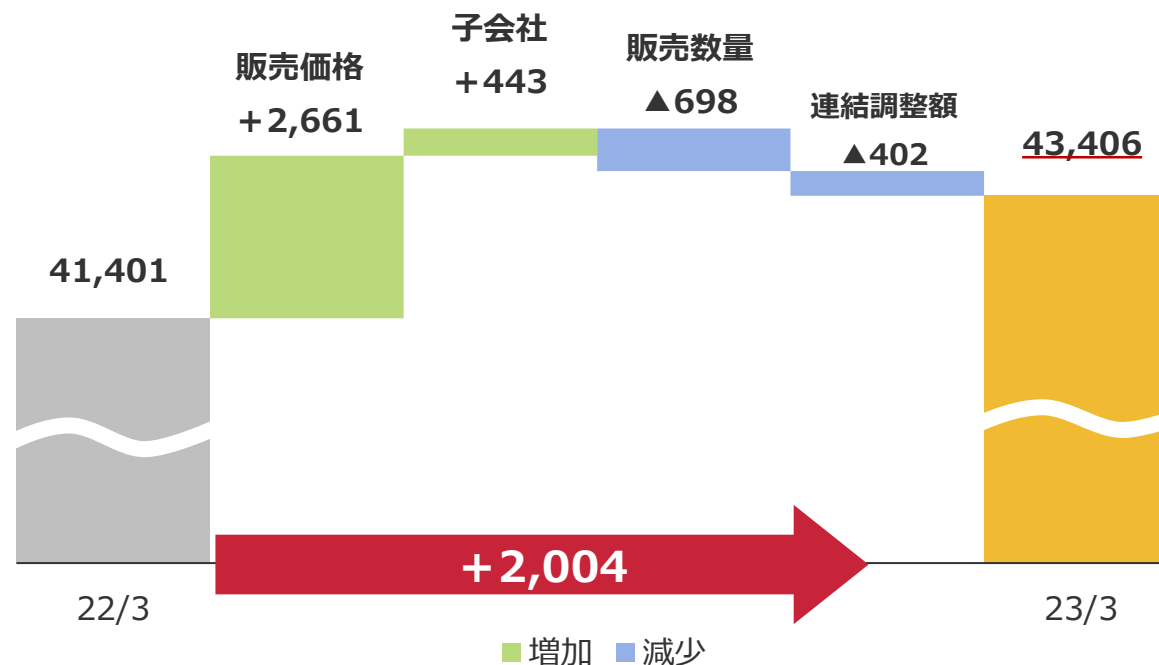
●売上高 推移



●前年比 四半期業績



●前年比 増減分析



1. 23年3月期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)

営業利益
(損失▲)

▲21百万円

前年比 ▲697百万円(- %)

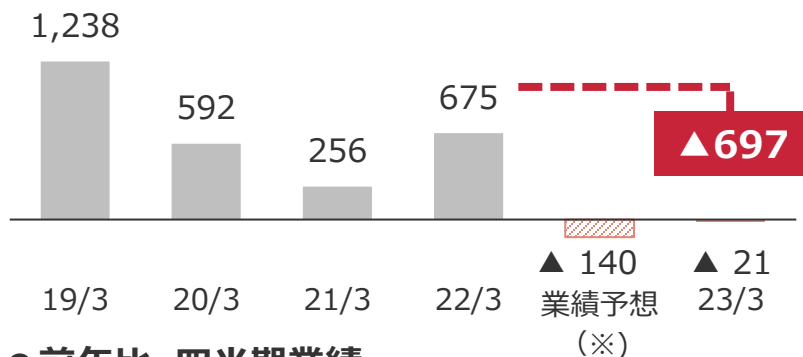
業績予想比 +118百万円(- %)

(※)

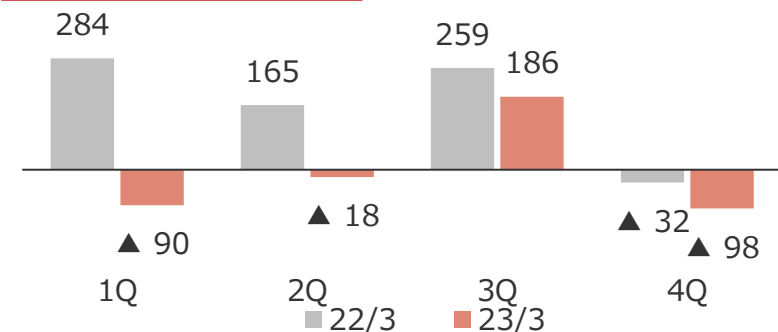
前年比 増減要因

- ✓ 原材料価格上昇の影響を受け、販売価格への転嫁継続により、下期以降は改善が見られたが、通期では十分吸収できず交易条件悪化
- ✓ エネルギーコスト等の上昇により変動費が増加したことや、インキ事業におけるインクジェットインクの欧米向け需要低迷や化成品事業の主力である自動車用途が国内自動車生産の減産影響を受けたことも採算悪化の要因
- ✓ タイ連結子会社をはじめ、在外子会社の採算性が前年度に比べ向上

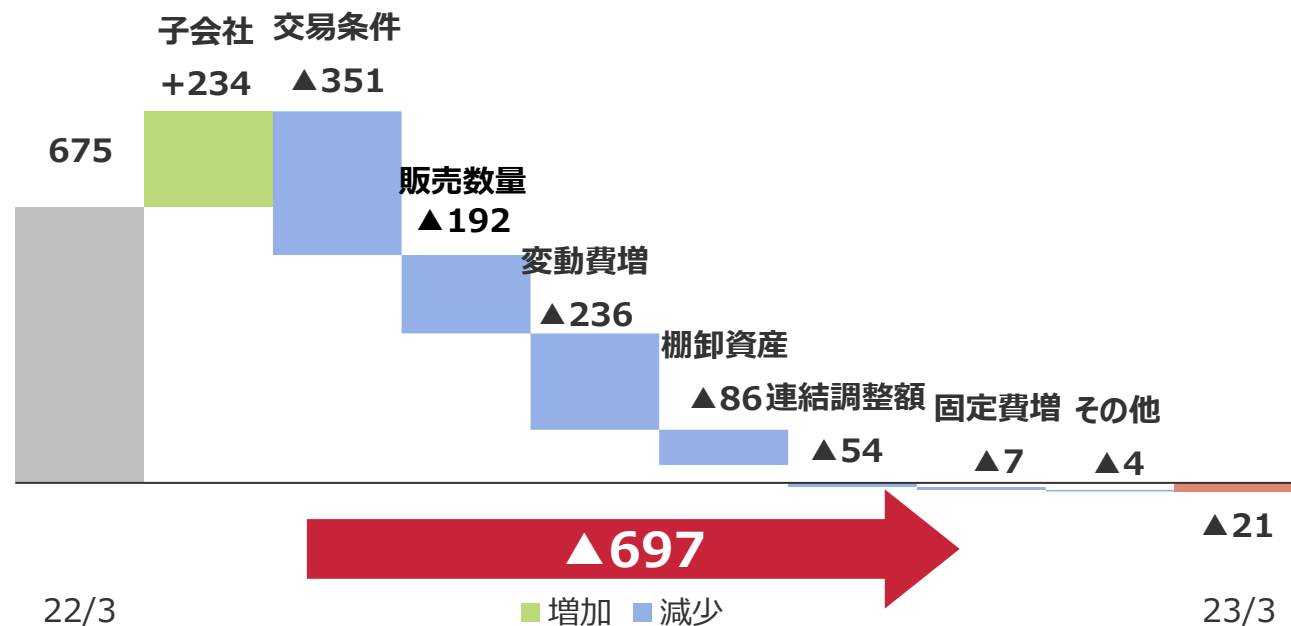
●営業利益 推移



●前年比 四半期業績



●前年比 増減分析



1. 23年3月期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)

前年比 増減要因

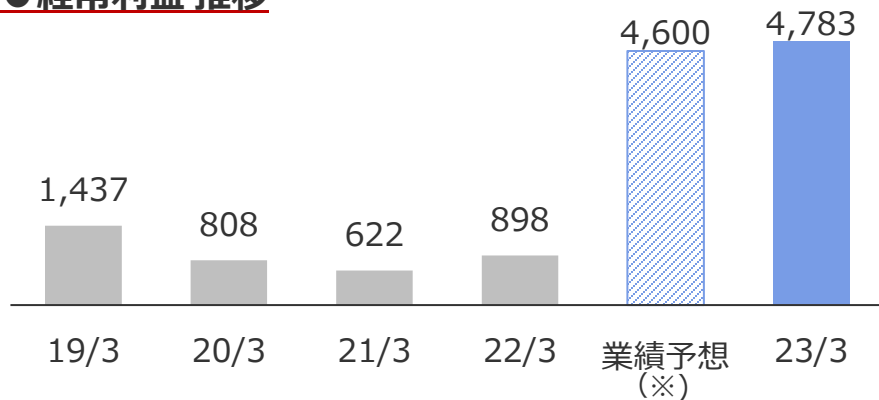
- ✓ 経常利益は米国連結子会社の出資分配益計上等により、大幅増益（出資分配益のスキーム詳細はP13に記載）
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純利益はインキ事業に属するオフセットインキ事業における固定資産の減損損失の計上による減益要因があるが、前年度比では増益

経常利益

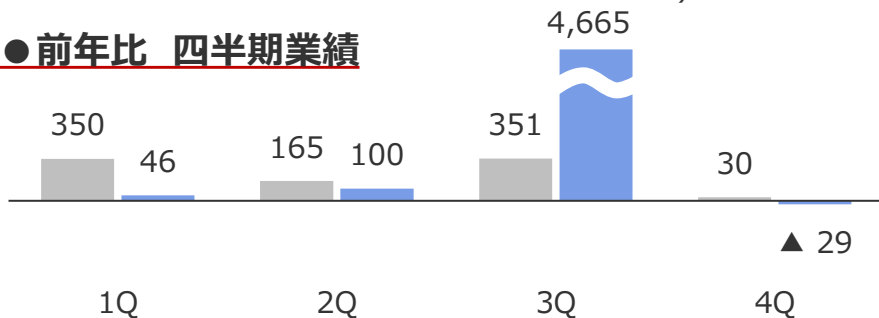
4,783百万円

前年比 **+3,885**百万円 (+432.6%)
 業績予想比 **+183**百万円 (+4.0%)
 (※)

● 経常利益 推移



● 前年比 四半期業績

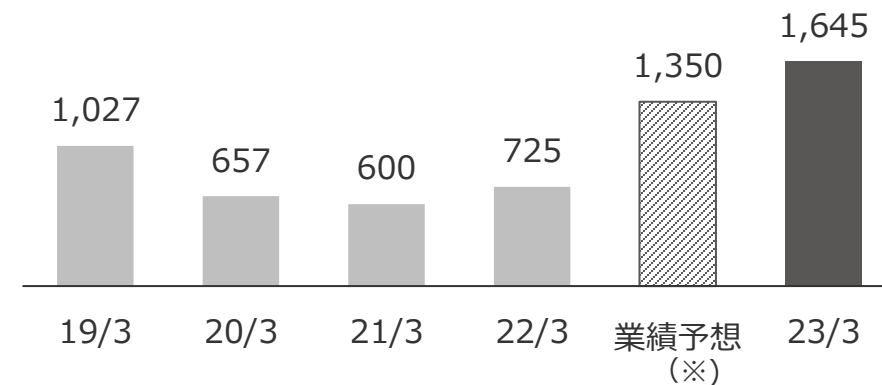


親会社株主に帰属する当期純利益

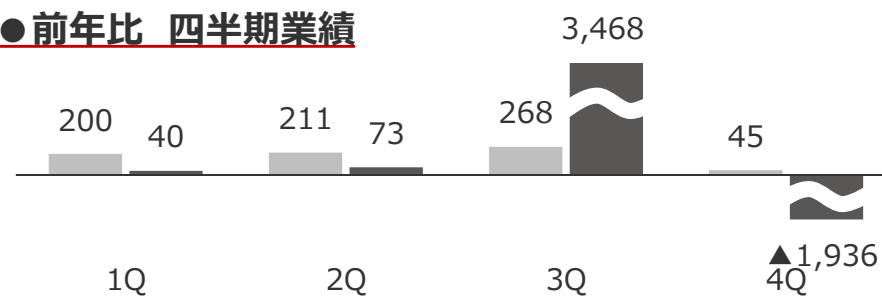
1,645百万円

前年比 **+919**百万円 (+126.7%)
 業績予想比 **+295**百万円 (+21.9%)
 (※)

● 親会社株主に帰属する当期純利益 推移



● 前年比 四半期業績

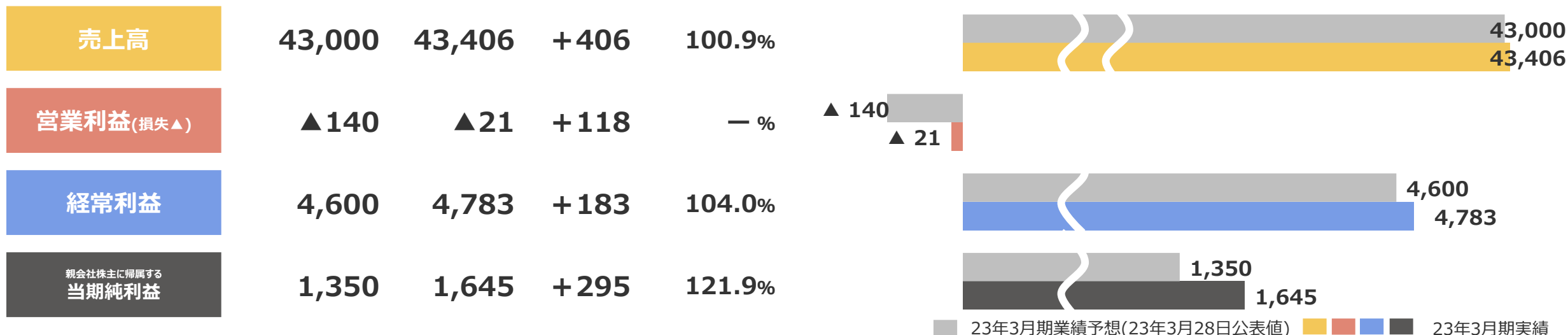


2. 23年3月期 通期連結業績予想(23年3月28日公表値)と実績との差異

(単位：百万円)

通期業績予想	22年5月13日公表値	23年3月28日公表値
売上高	43,850	43,000
営業利益(損失▲)	725	▲140
経常利益	870	4,600
親会社株主に帰属する当期純利益	700	1,350

通期業績予想 23年3月期 (23年3月28日公表値)	実績 23年3月期	差額	達成率	通期連結業績予想 達成率
-----------------------------------	--------------	----	-----	--------------



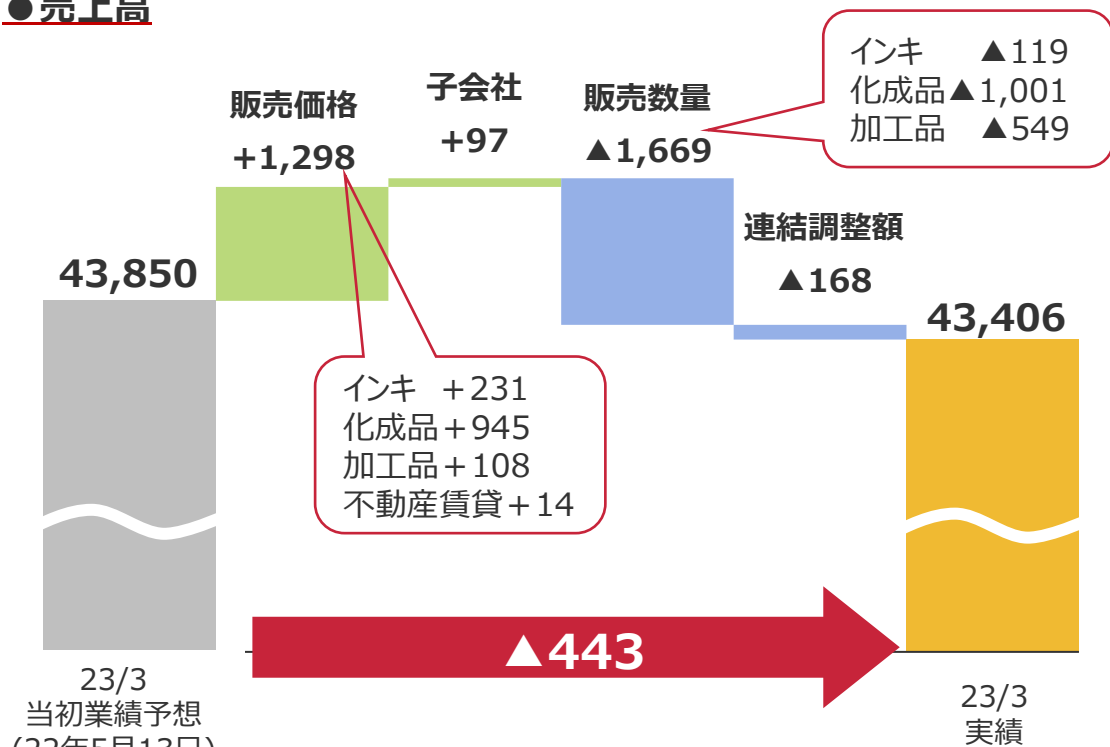
- ・前回発表予想値(23年3月28日公表値)から想定以上の製品価格改定や販売増により、売上高は微増
- ・営業利益は上記に伴う増益に加え、一層のコスト削減による損失幅の減少
- ・経常利益は営業利益に加え為替変動等の影響、親会社株主に帰属する当期純利益は税効果会計等の影響が大きく、前回予想を上回る結果

3. 23年3月期 通期連結業績予想(22年5月13日公表値)と実績との差異

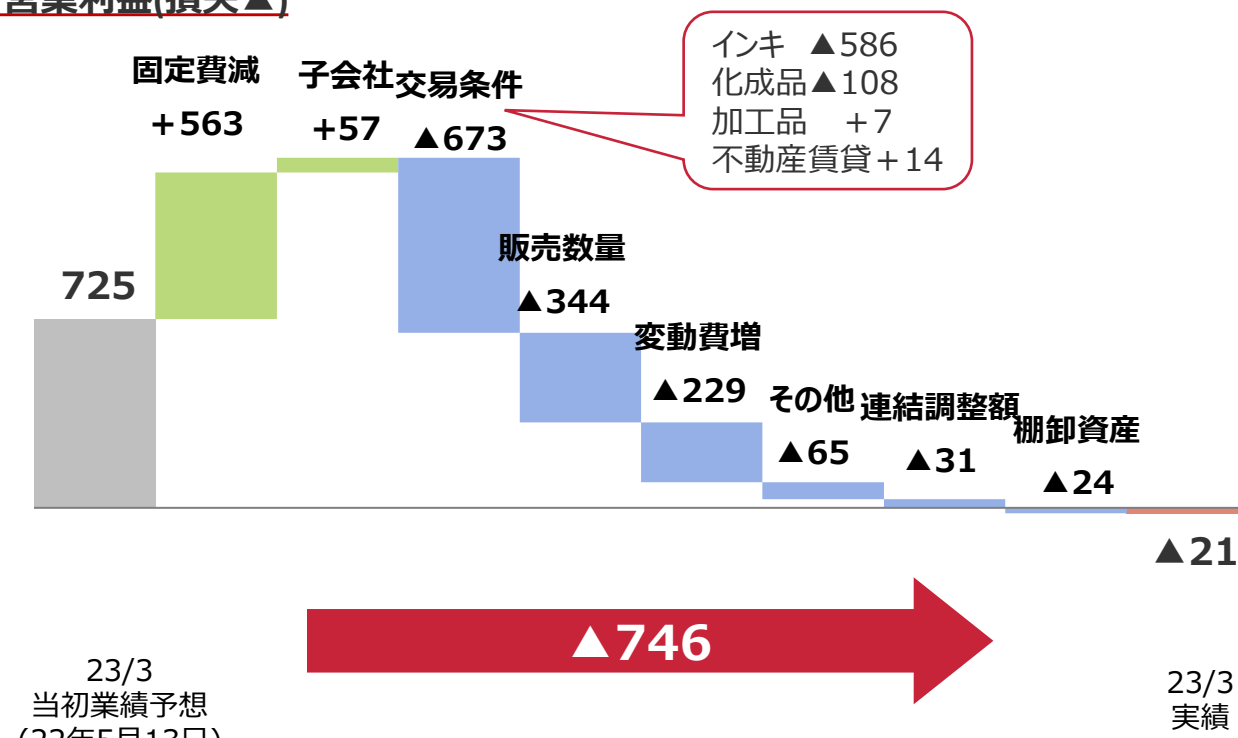
(単位：百万円)

通期業績予想	22年5月13日公表値	23年3月28日公表値
売上高	43,850	43,000
営業利益(損失▲)	725	▲140
経常利益	870	4,600
親会社株主に帰属する当期純利益	700	1,350

●売上高



●営業利益(損失▲)

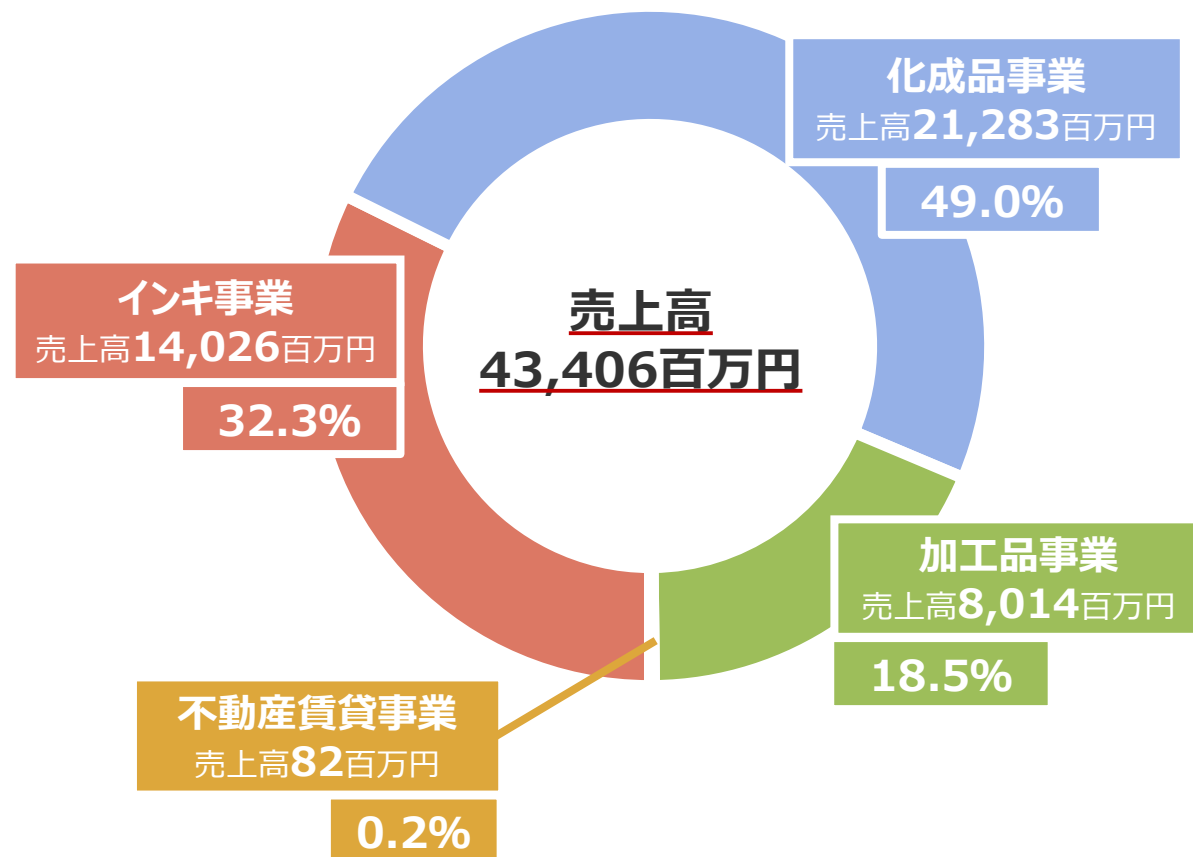


■ 増加 ■ 減少

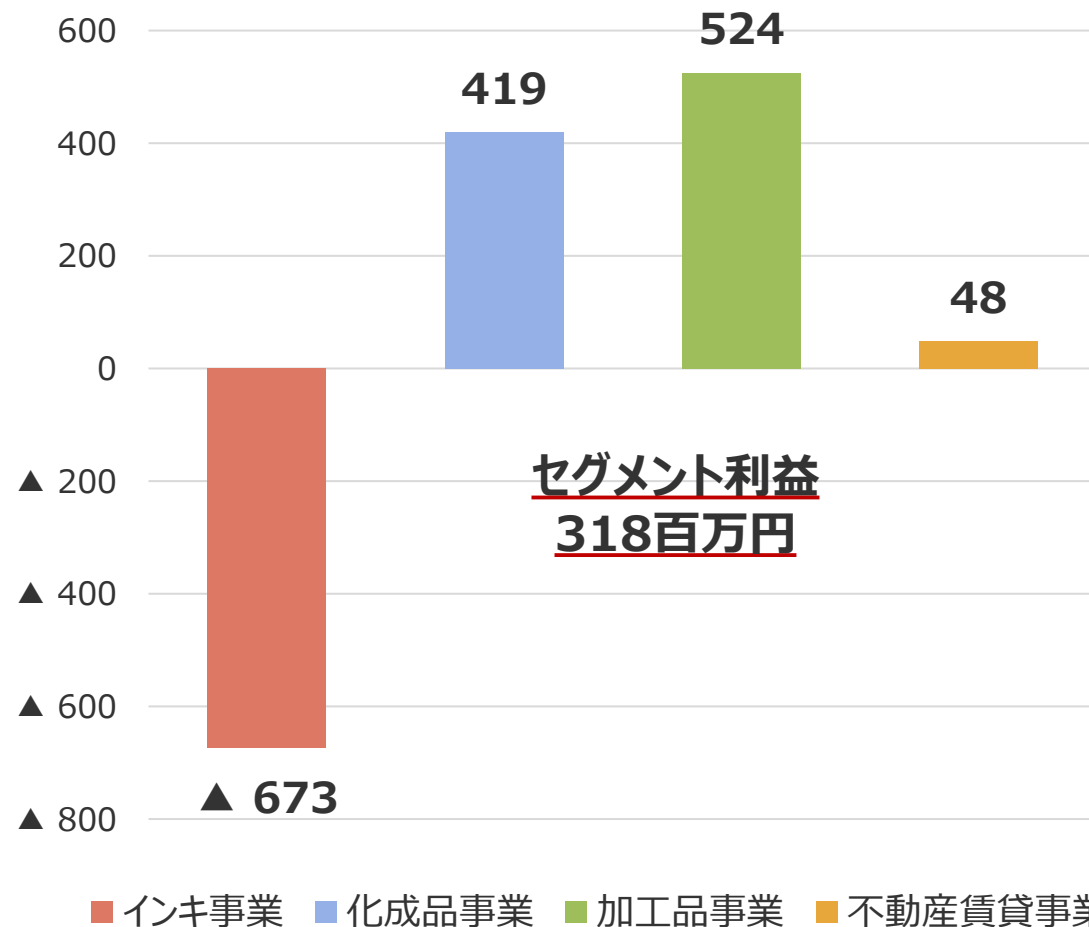
4. 23年3月期 セグメント別業績サマリー

(単位：百万円)

●売上高 構成比



●セグメント利益(損失▲)



※23年3月期より全社費用の区分見直し実施

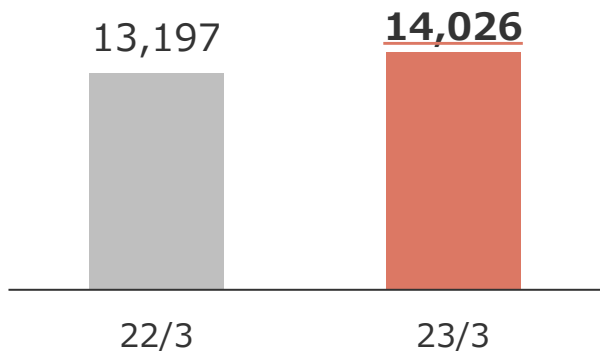
4. 23年3月期 インキ事業

(単位：百万円)

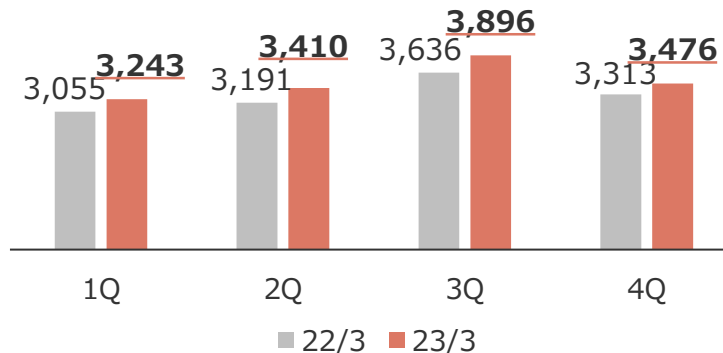
売上高 **14,026**百万円 前年比 **+829**百万円 (+6.3%)

セグメント利益 **▲673**百万円 前年比 **▲487**百万円 (-%)
(損失▲)

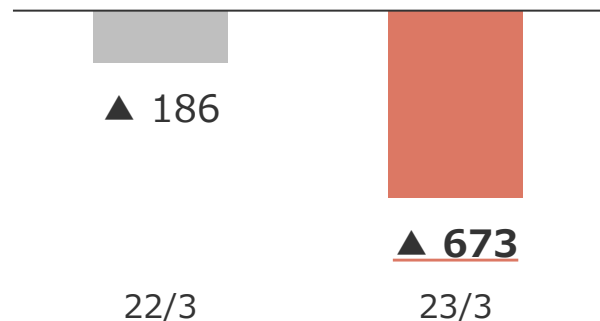
●売上高 前年比



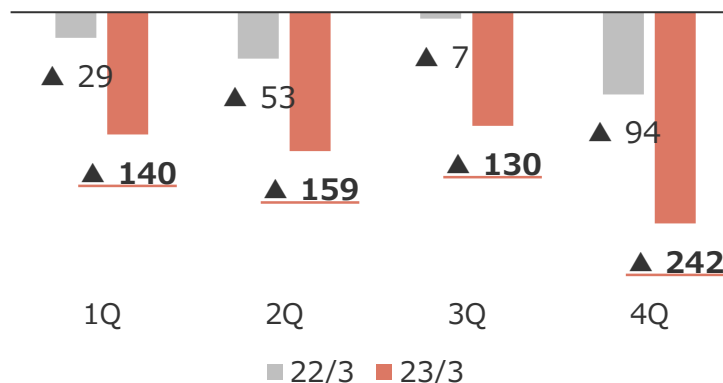
●売上高四半期推移 前年比



●セグメント利益(損失▲) 前年比



●セグメント利益(損失▲)四半期推移 前年比



●オフセットインキ

・重要顧客への販売強化に努めるも、原油高と円安による原材料価格上昇影響がさらに悪化したことにより、採算性低下



●グラビアインキ

・人流回復に伴い需要が一定回復
・機能性製品（コート剤など）の拡販進展
・原材料価格上昇に対する製品価格改定が一定程度進捗



●インクジェットインク

・欧米向け受託製品需要低迷
・建材用途・メディカル用途機能性インク堅調



(※)23年3月期より全社費用の区分見直し実施に伴い、22年3月期における各事業のセグメント利益を区分見直しの数値に置き換え

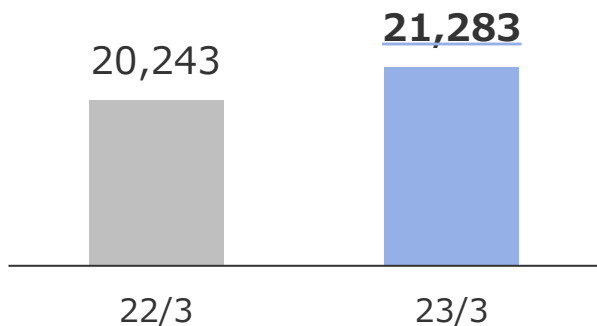
4. 23年3月期 化成品事業

(単位：百万円)

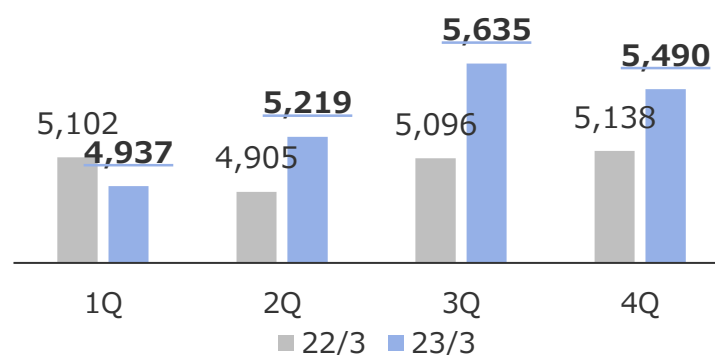
売上高 **21,283**百万円 前年比 **+1,039**百万円 (+5.1%)

セグメント利益 **419**百万円 前年比 **▲293**百万円 (▲41.2%)

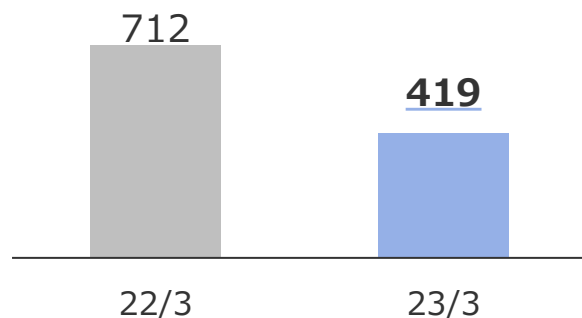
●売上高 前年比



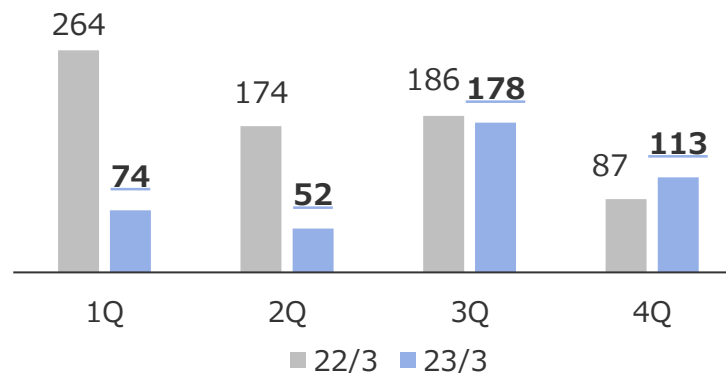
●売上高四半期推移 前年比



●セグメント利益 前年比



●セグメント利益四半期推移 前年比



●マスターバッチ・樹脂コンパウンド

- 自動車用マスターバッチおよび樹脂コンパウンド
⇒徐々に国内自動車生産の回復が見られるものの、連結会計年度では減産影響が継続
- 包装材・容器用マスターバッチ
⇒社会経済活動正常化に伴い一定回復
- 産業資材用途および環境配慮製品
⇒堅調に推移



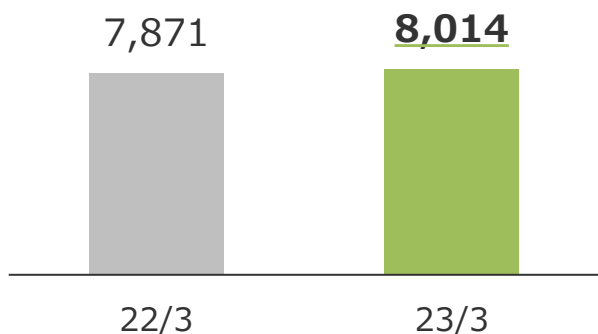
(※)23年3月期より全社費用の区分見直し実施に伴い、22年3月期における各事業のセグメント利益を区分見直しの数値に置き換え

4. 23年3月期 加工品事業

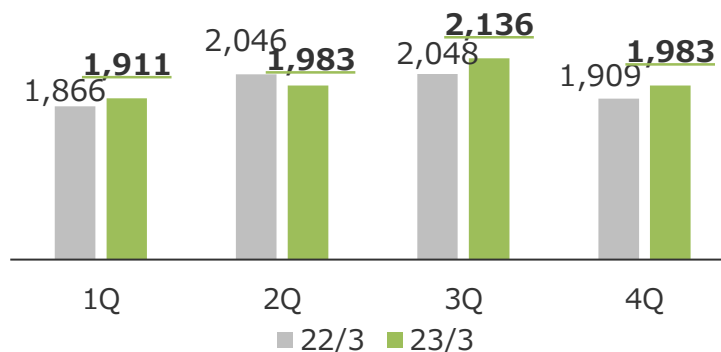
(単位：百万円)

売上高 8,014百万円 前年比 **+142**百万円 (+1.8%)
セグメント利益 524百万円 前年比 **+171**百万円 (+48.6%)

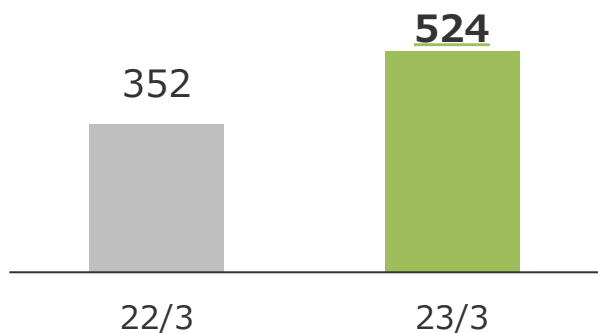
●売上高 前年比



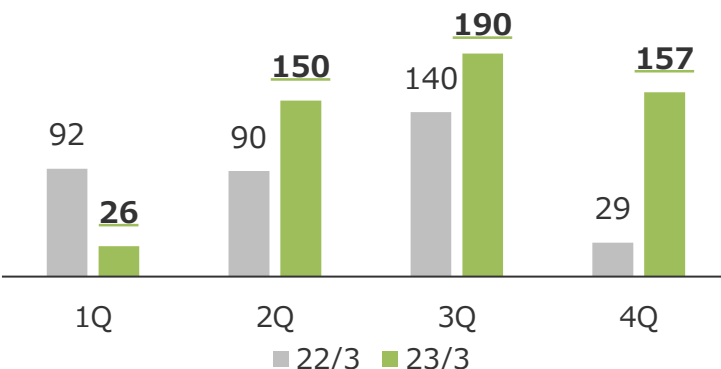
●売上高四半期推移 前年比



●セグメント利益 前年比



●セグメント利益四半期推移 前年比



●ネトロン工材

・水処理用資材の輸出需要堅調

●ネトロン包材

・農水産物向けが底堅く推移



●一軸延伸フィルム

・社会経済活動の正常化に伴い包材需要回復
 ・工業用途の輸出案件好調
 ・新規案件順調



●土木資材

・主力製品のジオセルが下期好調で前年度並みに回復



●農業資材

・高機能製品が好調に推移

(※)23年3月期より全社費用の区分見直し実施に伴い、22年3月期における各事業のセグメント利益を区分見直しの数値に置き換え

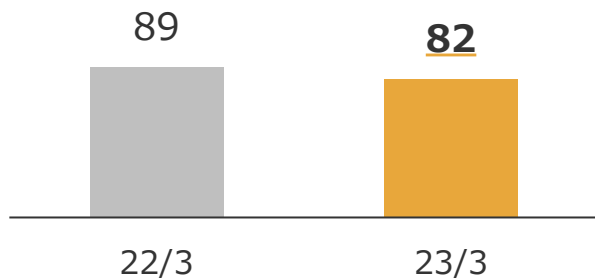
4. 23年3月期 不動産賃貸事業

(単位：百万円)

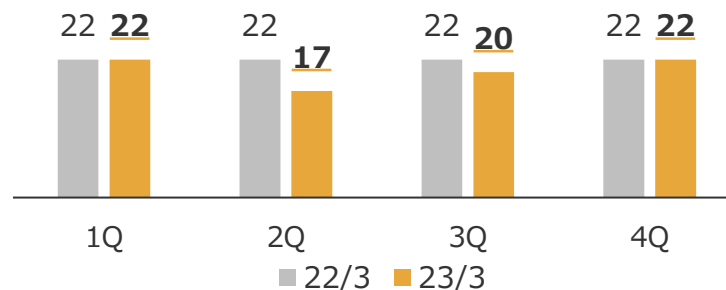
売上高 82百万円 前年比 ▲7百万円 (▲7.9%)
セグメント利益 48百万円 前年比 ▲6百万円 (▲12.3%)

・戸建賃貸住宅「パレットパークタウン」および
 本社ビル賃貸オフィス稼働が堅調に推移

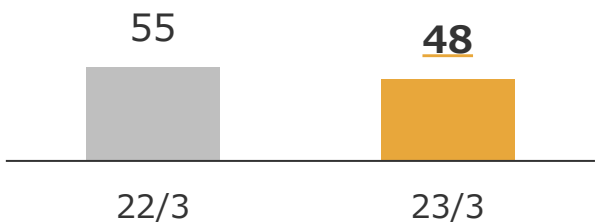
●売上高 前年比



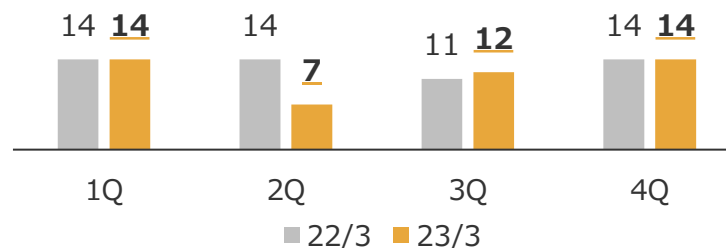
●売上高四半期推移 前年比



●セグメント利益 前年比

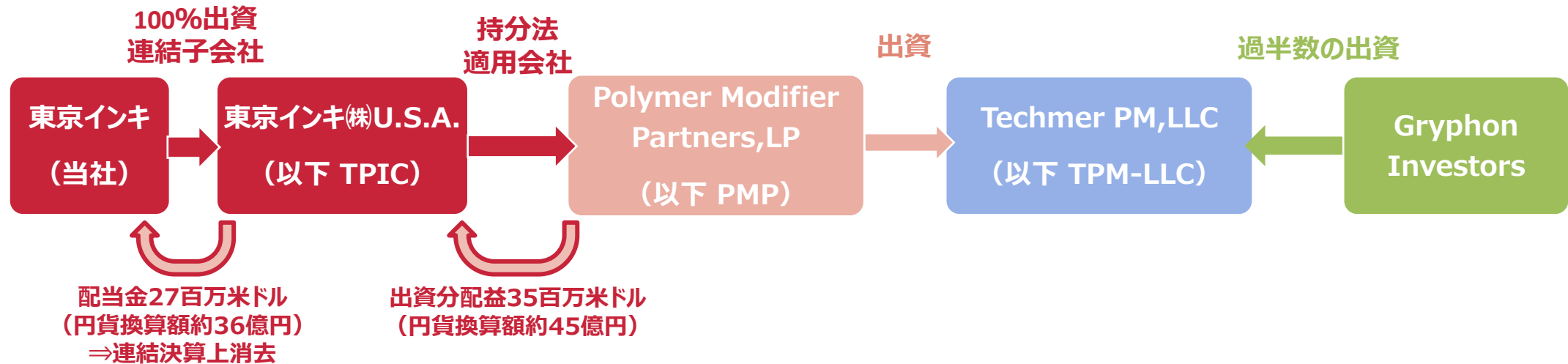


●セグメント利益四半期推移 前年比

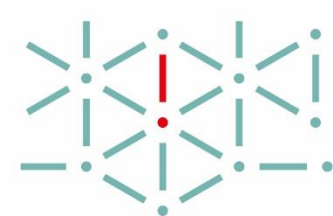


(※)23年3月期より全社費用の区分見直し実施に伴い、
 22年3月期における各事業のセグメント利益を
 区分見直しの数値に置き換え

✓ 米国連結子会社の出資分配益について

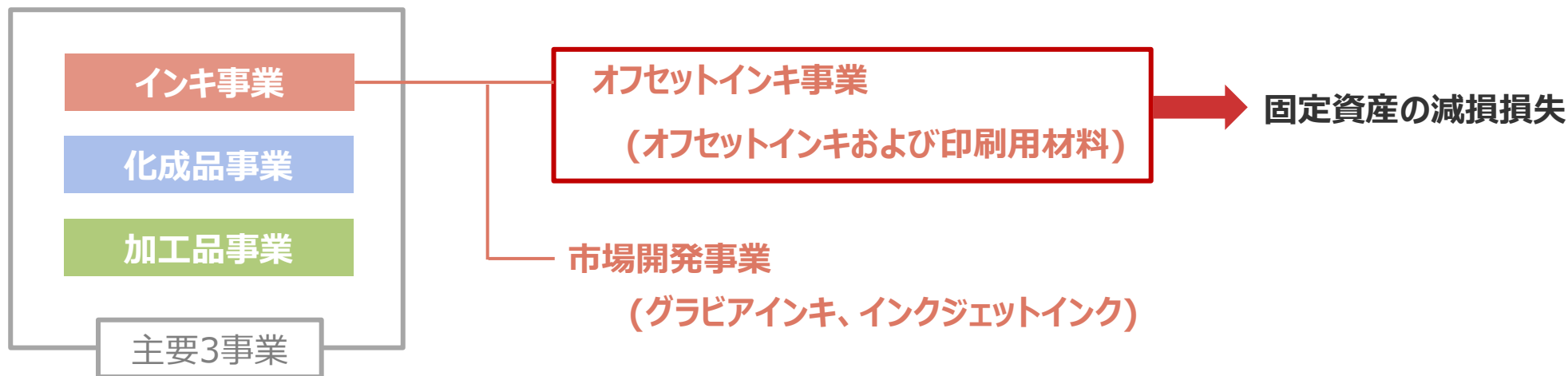


- 当社の米国連結子会社TPICが出資している持株会社PMPの出資先である TPM-LLCは、グローバル市場での競争力強化と更なる事業成長の加速を目的としてプライベートエクイティファームである Gryphon Investors から過半数の出資を受入（22年9月30日公表）
- 当社23年3月期（連結決算）にて、TPIC の PMP に対する持分法に伴う出資分配益 35 百万米ドル（円貨換算額約 45 億円）を営業外収益に計上
- 当社23年3月期（個別決算）にて、TPICからの配当金 27 百万米ドル（円貨換算額約 36 億円）を営業外収益に計上 ⇒連結子会社からの配当であるため連結決算上消去



✓ 減損損失の計上について

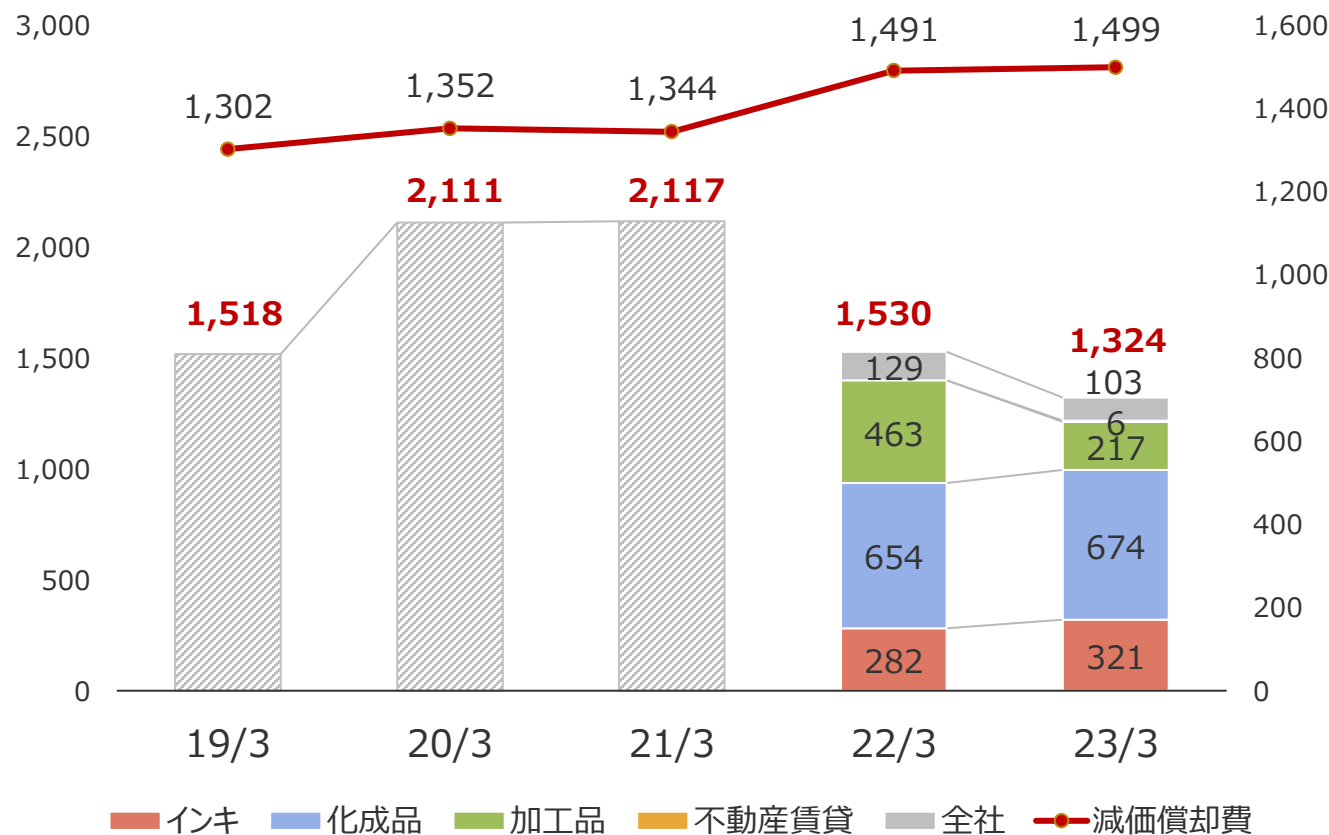
- インキ事業に属するオフセットインキ事業における固定資産について、営業利益が継続してマイナスであり、投資額を上回るキャッシュの回収が見込めない状況であることから、固定資産の減損損失として約 19 億円を特別損失に計上



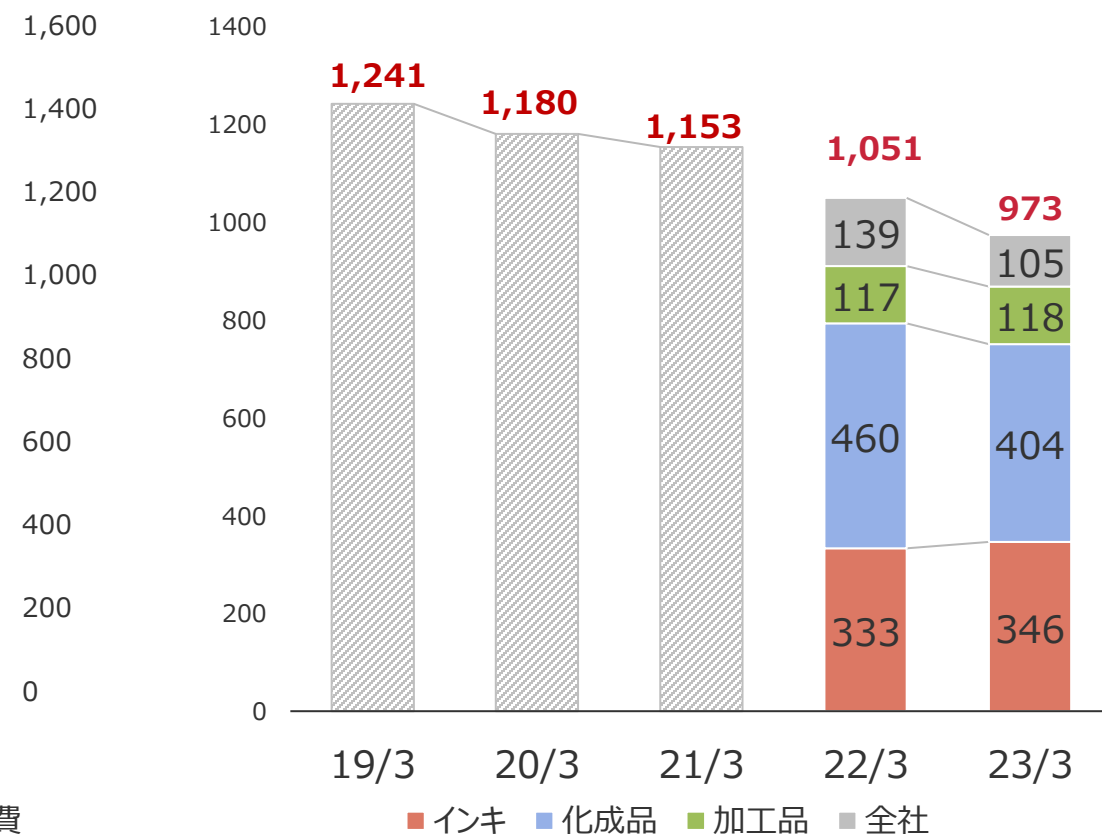
(単位：百万円)

✓ 設備投資額・減価償却費・研究開発費推移

● 設備投資額・減価償却費



● 研究開発費



※23年3月期より全社費用の区分見直し実施に伴い、22年3月期における各事業の設備投資額・研究開発費を区分見直しの数値に置き換え
19年3月期～21年3月期については当社グループ合計額を記載

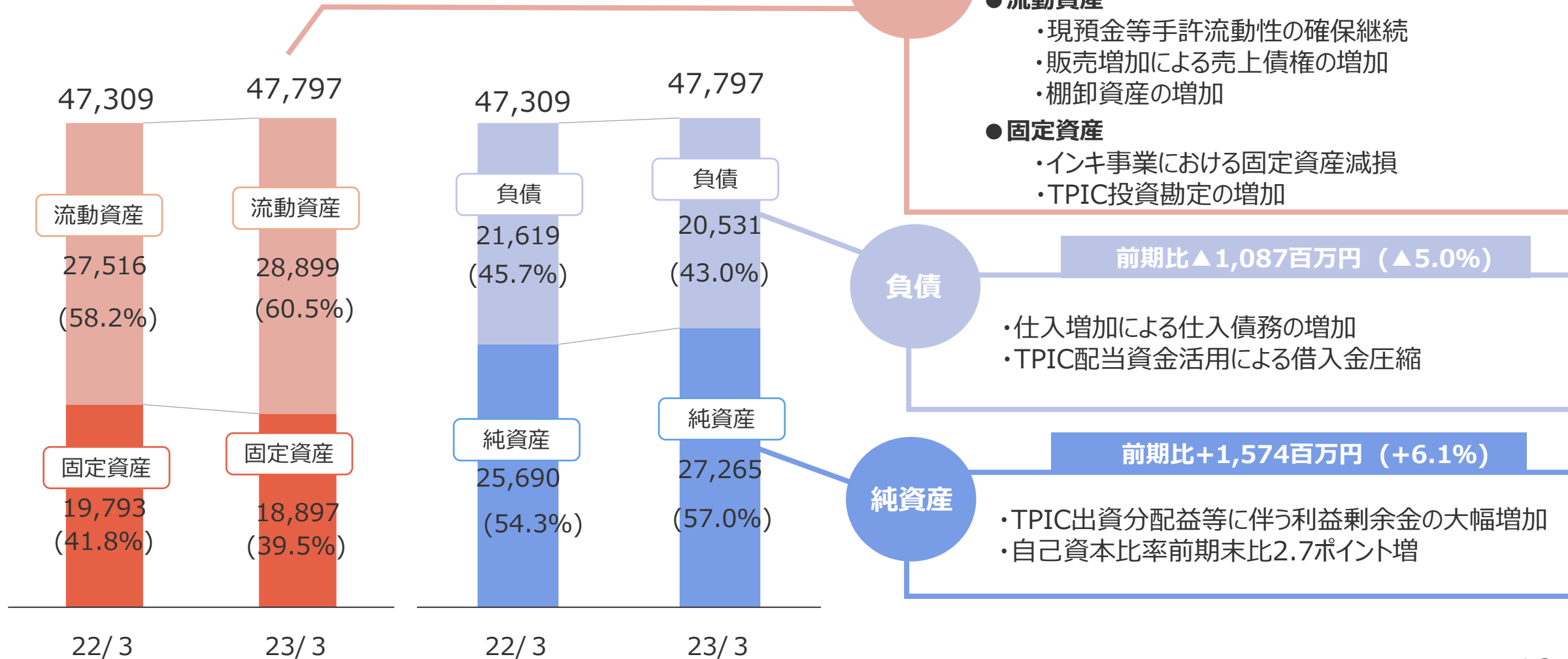
5. 23年3月期 その他連結決算情報

(単位：百万円)

✓ 連結貸借対照表

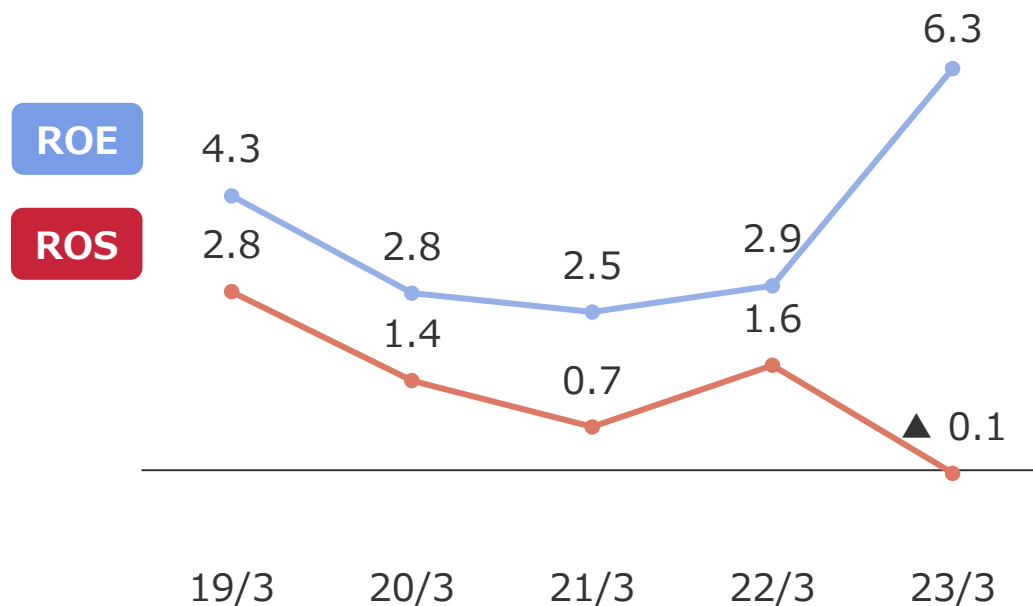
●資産の部

●負債・純資産の部

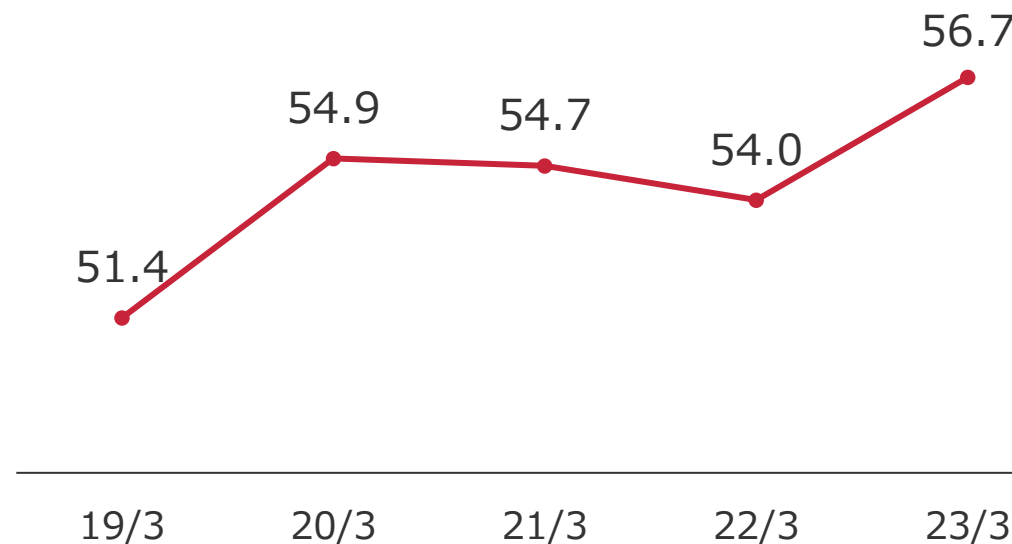


✓ ROE・ROS・自己資本比率

● ROE・ROS



● 自己資本比率

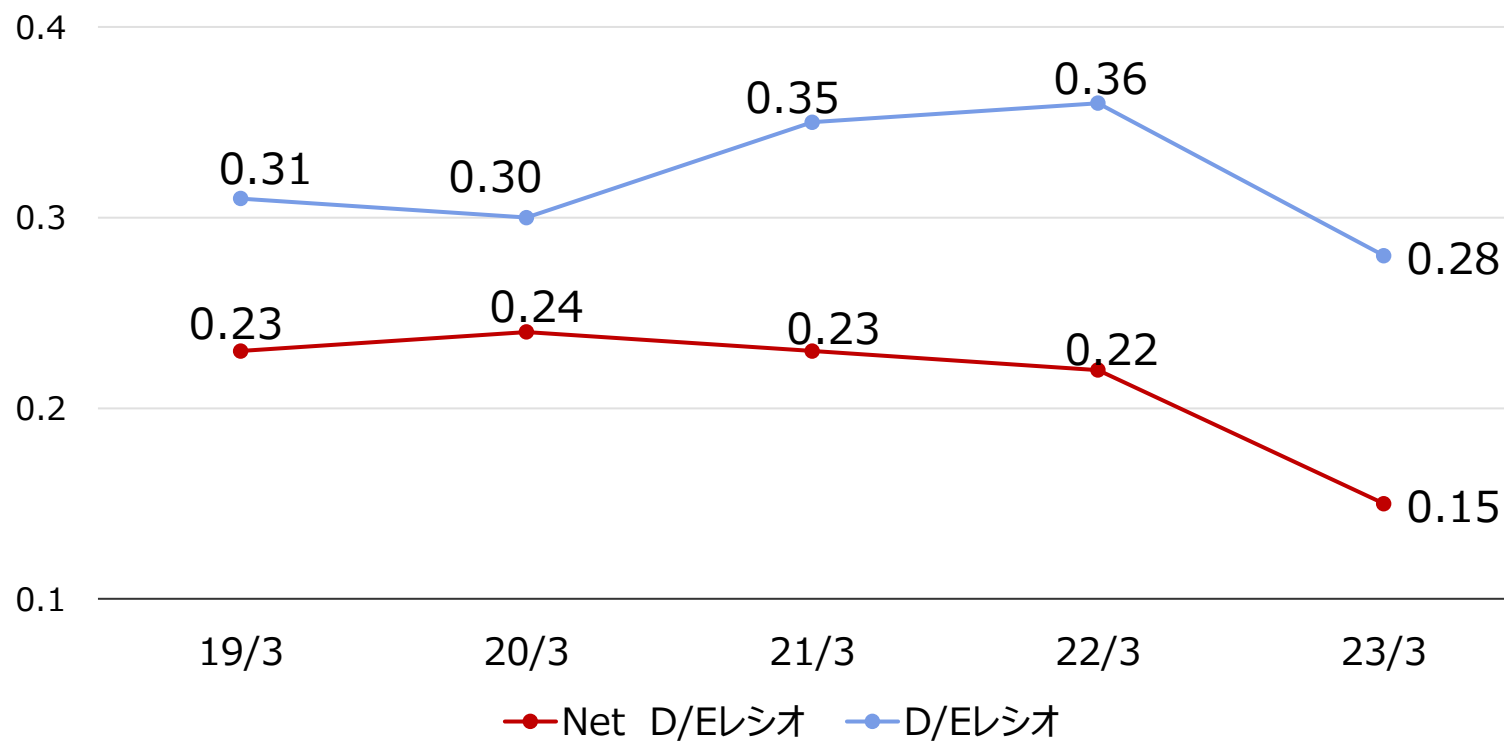


ROE (自己資本当期純利益率) = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ (純資産 - 非支配株主持分)

ROS (売上高営業利益率) = 営業利益 ÷ 売上高

✓ D/Eレシオ

- ・米国連結子会社からの配当資金活用による借入額減少および純資産増加に伴い、D/EレシオおよびネットD/Eレシオは前年度より低下
- ・中期経営計画「TOKYOink 2024」における目標とする経営指標D/Eレシオ0.3倍以下を現時点で達成

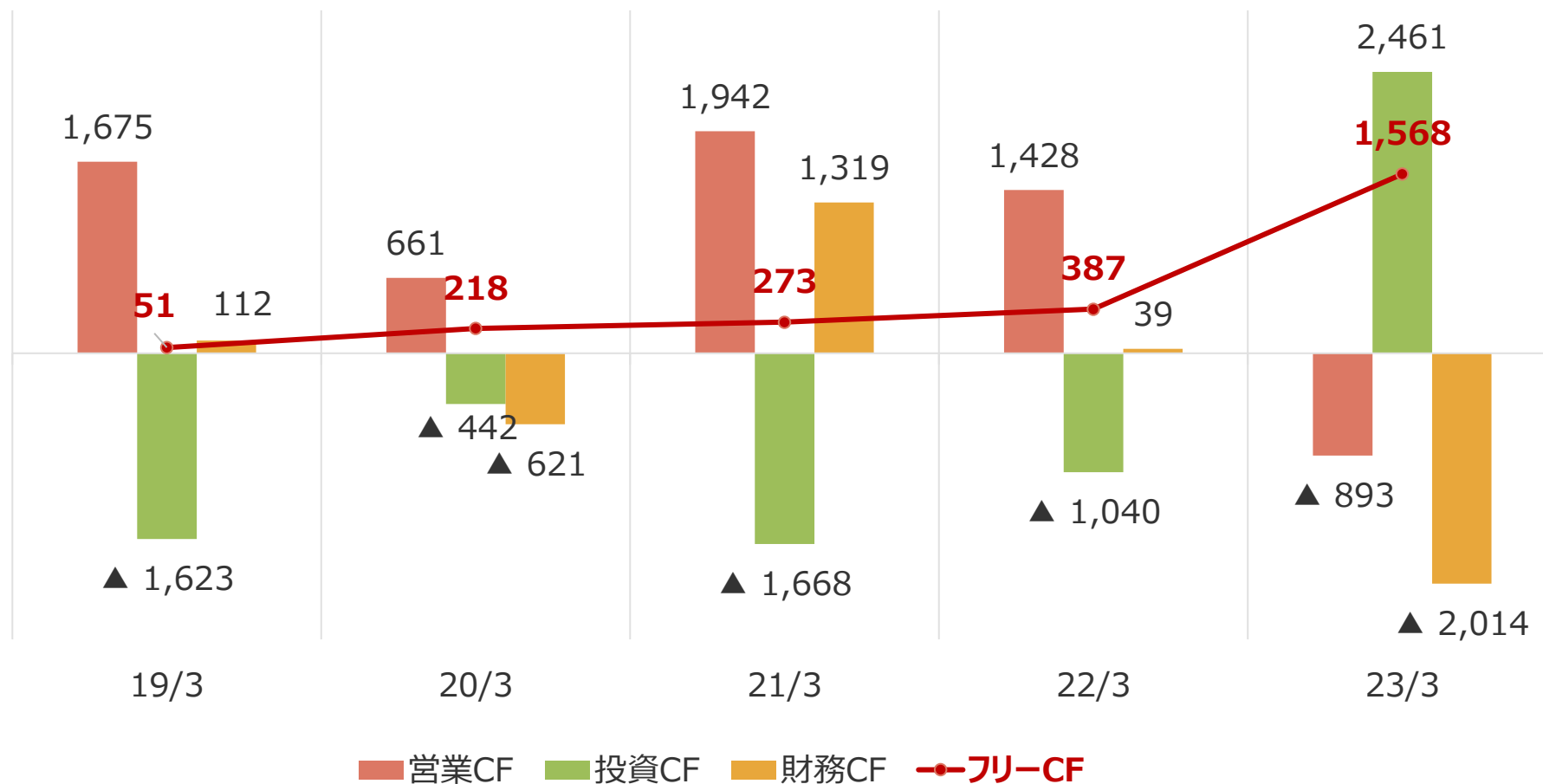


D/Eレシオ：有利子負債／自己資本

ネットD/Eレシオ：ネット有利子負債(有利子負債－現預金)／自己資本

✓ 連結キャッシュ・フロー

- 前年度は十分な営業利益をベースに、事業投資を実施
- 当年度は営業損失であったが、米国連結子会社出資先からの分配金の大幅増加により、フリー・キャッシュ・フローは大幅なプラス

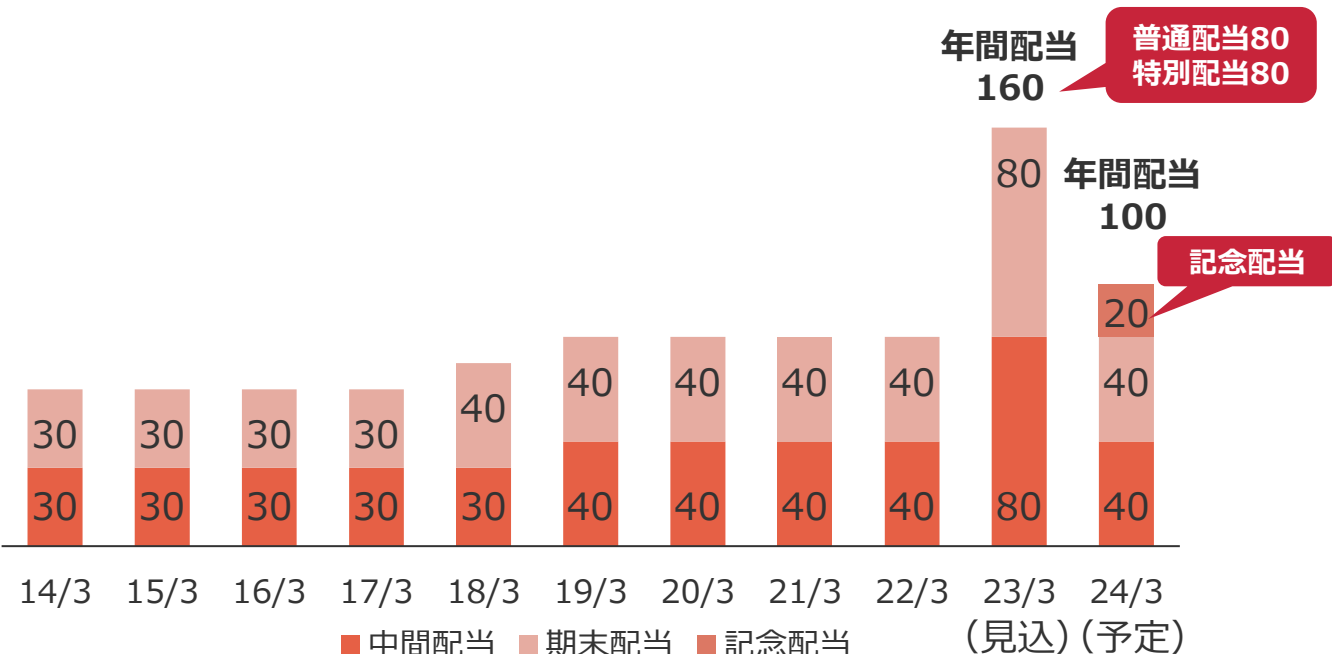


6. 株主還元

(単位：円、%)

経営基盤の強化ならびに今後の企業価値向上へ向けた内部留保を確保しつつ、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つとし、安定的かつ継続的に配当することを基本方針としております。また、中期経営計画「TOKYOink 2024」における配当方針として、配当性向30%以上を目標としております。24年3月期は当社創立100周年に当たり、記念配当を予定しております。

配当金 推移



※2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施
2017年3月期以前の配当金は遡及して修正

株主優待

毎年3月31日現在当社株式1単元(100株)以上を保有の株主様へオリジナルカード1,000円分、300株以上かつ3年以上保有の場合はさらにオリジナルカード1,000円分を贈呈

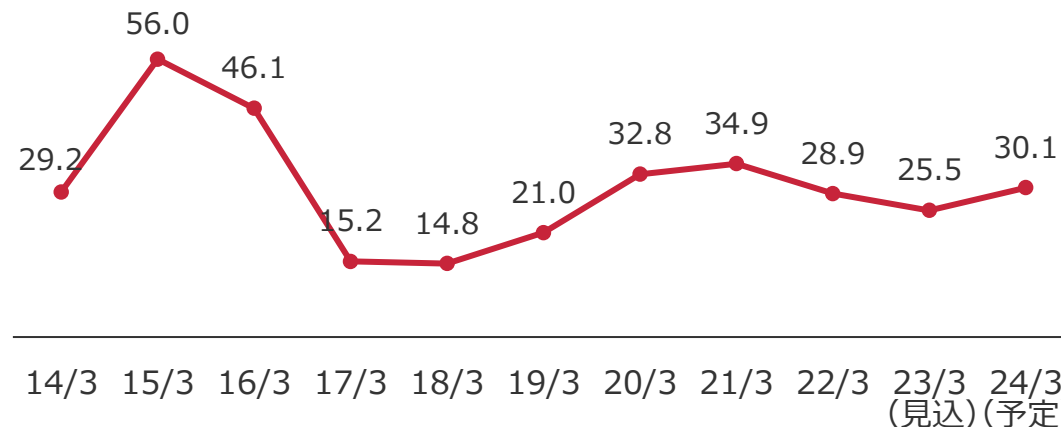


23年3月期 (見込)

24年3月期 (予定)

中間配当	普通配当 1株当たり40円 特別配当 1株当たり40円	普通配当 1株当たり40円
期末配当	普通配当 1株当たり40円 特別配当 1株当たり40円	普通配当 1株当たり40円
記念配当	-	1株当たり20円
年間配当	160円	100円
配当性向	25.5%	30.1%

配当性向 推移



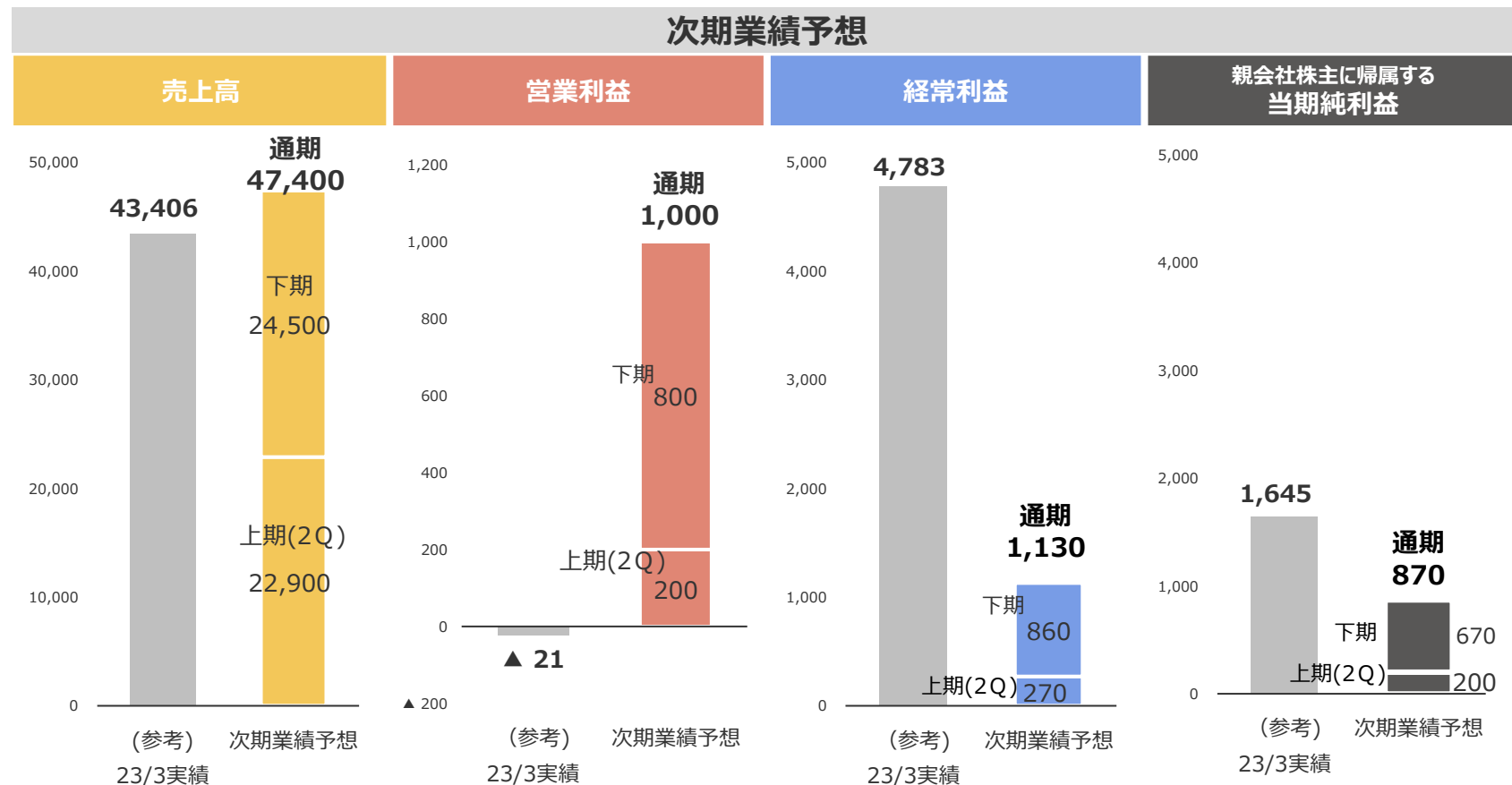
7. 次期業績予想

(単位：百万円)

- 原油価格が高止まりしていることに円安が重なり、当社グループも原油由来の原材料価格やエネルギーコストの上昇に大きな影響を受けているが、中期経営計画「TOKYOink 2024」で掲げた経営方針のもとに、中長期的には市場に求められる製品開発や企業に求められるESG課題への取り組みを確実に推し進めるとともに、外部環境の変化に左右されない強い企業体質を構築することで企業価値向上に努める
- 短期的には原材料高騰に対応した製品価格改定をより一層進めていくことが喫緊の課題であると認識し、環境に配慮した製品の開発や拡販の推進も合わせて進める

	第2四半期 業績予想	通期業績予想
--	---------------	--------

売上高	22,900	47,400
営業利益	200	1,000
経常利益	270	1,130
親会社株主に帰属する 当期純利益	200	870



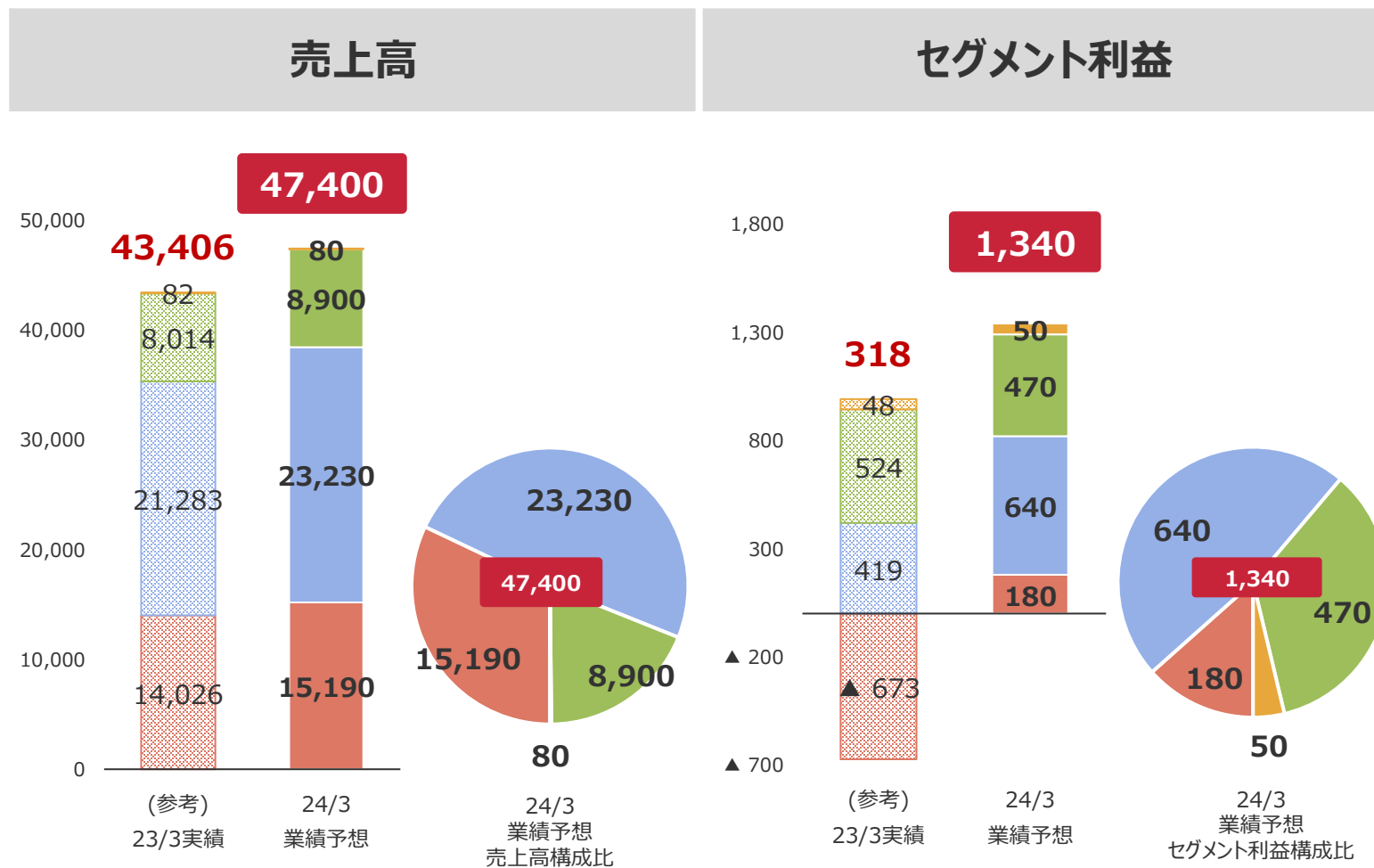
上記業績予想は23年5月15日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績等は、様々な要因により予想数値と異なる可能性があります

7. 次期業績予想

(単位：百万円)

●セグメント別業績予想

次期業績予想 (通期)	売上高	セグメント利益
インキ事業	15,190	180
化成品事業	23,230	640
加工品事業	8,900	470
不動産賃貸事業	80	50
セグメント合計	47,400	1,340
全社費用他		▲340
連結営業利益		1,000



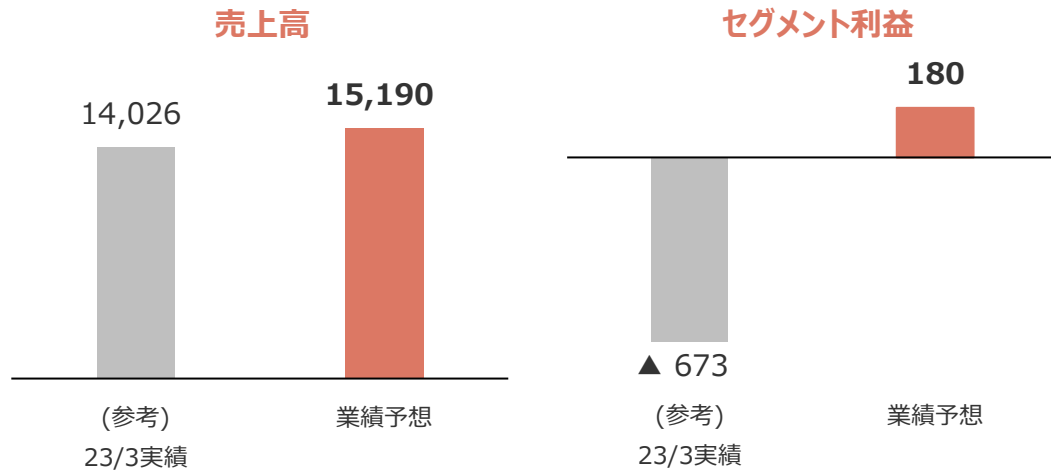
上記業績予想は23年5月15日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績等は、様々な要因により予想数値と異なる可能性があります

■ インキ事業 ■ 化成品事業 ■ 加工品事業 ■ 不動産賃貸事業

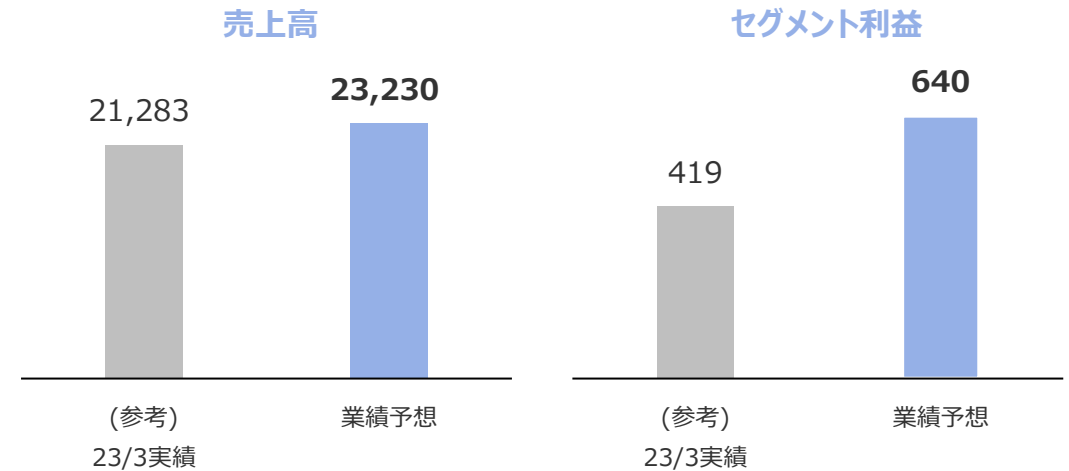
7. 次期業績予想

(単位：百万円)

インキ事業	売上高	セグメント利益
通期業績予想	15,190	180



化成品事業	売上高	セグメント利益
通期業績予想	23,230	640



●事業の外部環境予測

- ・オフセットインキは構造的な市場縮小が継続
- ・グラビアインキは軟包装分野での堅調な需要が継続
- ・インクジェットインキは産業用途の市場が拡大
- ・環境に配慮した製品の需要が拡大

●次期業績予想達成に向けた主な取り組み

- ・製品販売価格改定が喫緊の課題（オフセットインキ）
- ・環境に配慮した製品の開発・拡販
（高バイオマスオフ輪インキ、ライスインキ等）
- ・収益力向上に向けて製品ポートフォリオの再構築を進める

●事業の外部環境予測

- ・国内自動車生産は回復基調も半導体供給に関する懸念残る
- ・包装用・容器用マスターバッチは脱プラスチック化に代表される環境対応の加速化による市場縮小継続
- ・環境に配慮した製品の需要が拡大

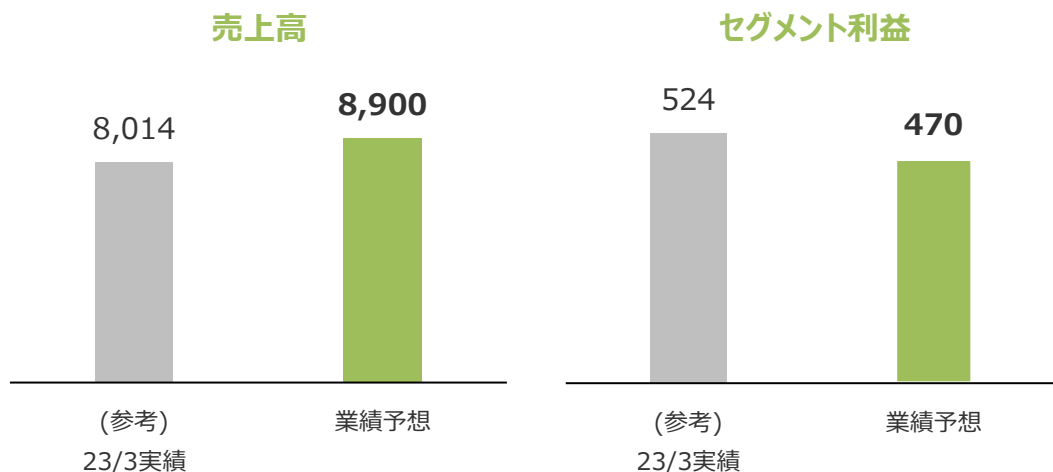
●次期業績予想達成に向けた主な取り組み

- ・製品販売価格改定及び高収益銘柄の拡販
- ・環境に配慮した製品の開発・拡販
（液状マスターバッチ、バイオプラスチックベースの着色剤、リサイクル材活用の検討等）

7. 次期業績予想

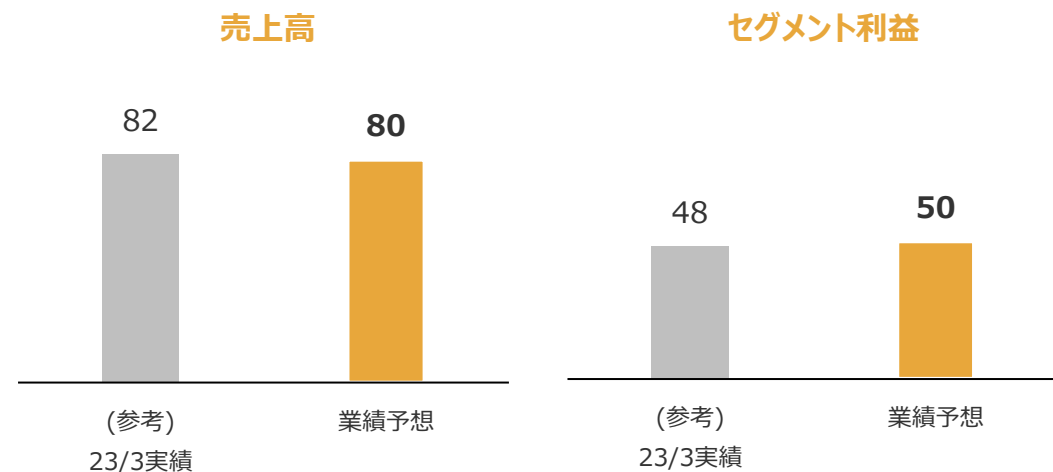
(単位：百万円)

加工品事業	売上高	セグメント利益
通期業績予想	8,900	470



- **事業の外部環境予測**
 - ・水処理用資材需要は引き続き伸長
 - ・土木資材は防災・減災用途の需要が増加
 - ・包装資材は脱プラスチック化に代表される環境対応の加速化による市場縮小継続
 - ・環境に配慮した製品の需要が拡大
- **次期業績予想達成に向けた主な取り組み**
 - ・水処理用資材や土木資材は生産能力増強や新製品開発・拡販
 - ・包装資材や農業資材は環境に配慮した製品の開発・拡販

不動産賃貸事業	売上高	セグメント利益
通期業績予想	80	50



- **事業の外部環境予測**
安定した事業環境の見込

期間

2022年4月1日～2025年3月31日

経営方針

1. 市場が求める価値の追求とりわけ環境・社会に貢献する製品・サービスの提供
2. 低成長時代にも耐えうる高効率な運営体制の実現

経営目標

売上高 450億円
 営業利益 20億円
 ROS 4.0%以上
 ROE 5.0%以上
 配当性向 30%以上

2023年12月 長期経営ビジョン公表

5つの基本戦略

1. ESG経営の推進
2. 新製品開発・新規事業探索
3. 高効率運営体制の実現
4. 成長投資
5. 資本効率・株主還元

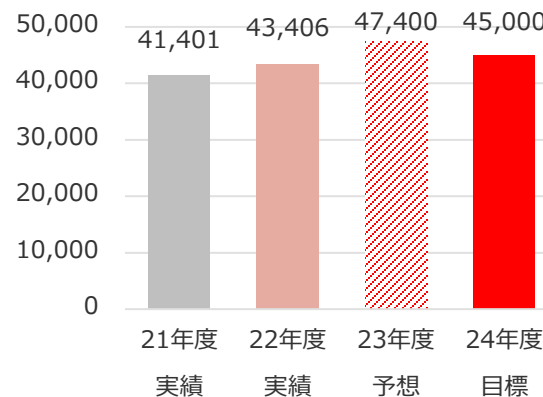
事業戦略

1. 経営方針に沿った環境・社会対応製品の開発推進
2. 経営方針に沿った運営体制の構築
3. 各事業の外部環境変化、市場動向に合わせた既存製品の競争力強化
4. 周辺事業領域の探索と成長製品の更なる拡充

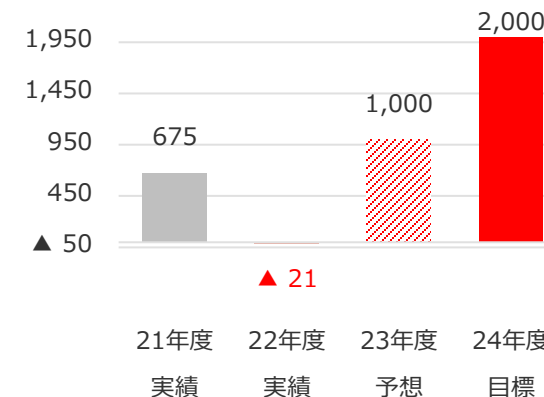
業績推移／連結損益推移

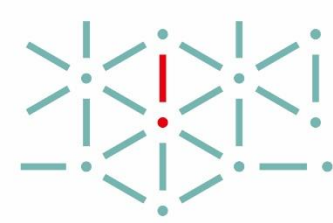
決算年月	TOKYOink 2020	TOKYOink 2024		
	21年度実績	1年目 22年度実績	2年目 23年度予想	3年目 24年度【目標】
売上高（百万円）	41,401	43,406	47,400	45,000
営業利益（百万円）	675	▲ 21	1,000	2,000
ROE(自己資本当期純利益率)	2.9 %	6.3%	3.2%	5.0%以上
ROS(売上高営業利益率)	1.6 %	▲0.1%	2.1%	4.0%以上
配当性向(連結)	28.9 %	25.5%	30.1%	30%以上

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

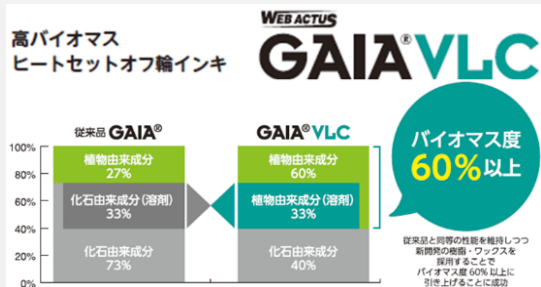




基本戦略	初年度の取り組み・成果
ESG経営の推進	<ul style="list-style-type: none">▶ 人事戦略策定、新人事制度策定▶ 理念体系再構築（行動指針策定）▶ 各種ガイドライン制定 (リスク、コンプライアンス、安全衛生、品質、サステナビリティ、環境、BCP)▶ 大阪工場再エネ電力導入▶ グリーン預金実施▶ 健康経営優良法人2023認定▶ 子育てサポート企業「くるみん認定」取得▶ フードドライブへの寄付実施
新製品開発 新規事業探索	<ul style="list-style-type: none">▶ 今年度は市場開発本部を中心に、展示会への参加を行い、環境対応や高機能製品の積極的な展開を行って参りました。 (次ページ【環境対応・高機能製品 取り組み事例】をご参照ください)
高効率運営体制の実現	<ul style="list-style-type: none">▶ ITツール導入による全社的な業務合理化推進（RPA導入拡大、クラウド化推進）▶ 自動化生産ライン構築検討（化成品）
成長投資	<ul style="list-style-type: none">▶ 各工場における生産設備更新および省エネ対策設備更新
資本効率 株主還元	<ul style="list-style-type: none">▶ 財務効率化：有利子負債圧縮による健全性確保（中計目標経営指標D/Eレシオ0.3倍以下）▶ 株主還元策の充実化：普通配当の他、特別配当による増配▶ 最適資本構成：機動的な資金需要に対応した調達環境の確保

インキ事業

◆高バイオマスオフ輪インキ GAIA® VLC



従来品と同等の性能を維持しつつ新開発の樹脂・ワックスを採用することで、インキ成分中のバイオマス度を

60%以上に引き上げたオフ輪インキとなります。

また、植物由来溶剤によりお客様における印刷乾燥工程時に排出する石油由来 CO2 を限りなくゼロにすることに貢献いたします。

◆環境調和型グラビアインキ ライスインキ

環境調和型グラビアインキ (ライスインキ)
従来のインキと同様に使用でき、同一の物性を実現

- ◆米ぬか油と樹脂成分を独自技術で結合させる事で従来のライスインキの耐熱性、耐油性、密着が弱い欠点を改善

PULPTECC (表刷用)
LAMITECC (ラミネート用)

炭酸ガス排出抑制、および石化資源使用削減に貢献
各種環境基準に適合、印刷物にマークの表示が可能です ※PAT取得済

INK MARK アイソマーク
バイオマーク
EcoMark

国産バイオマス原材料である米ぬか原油の非食用部分を利用した環境調和型グラビアインキとなります。

従来のインキと同等の印刷適

性を有しているため、通常通り印刷が可能であり、使用時の CO2 排出量抑制および石化資源使用削減に貢献いたします。

化成品事業

◆リキッドカラー HiFormer®



従来品であるペレット状のマスターバッチは高熱下で加工するため、製造時の使用エネルギーが大きくなりますが、液状マスターバッチは高熱下での加工を必要としないため、製造時の使用エ

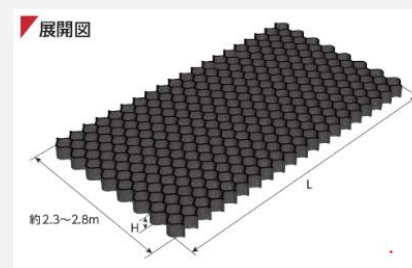
ネルギーを大幅に低減できます。

着色成分が従来品よりも高濃度で処方されているため、成形加工時の添加量を少なくすることができ、結果的に輸送コスト低減に繋がるとともに、液体であることから樹脂ペレットに拡散しやすく、色むら、ショットブレなどの使用時の不具合低減にも貢献いたします。

専用の供給制御装置を使用することで液体同士が接触しないため切替時の清掃が不要になりロス低減にも繋がります。

加工品事業

◆ジオセル (グラウンドセル/テラセル) のり面保護工法



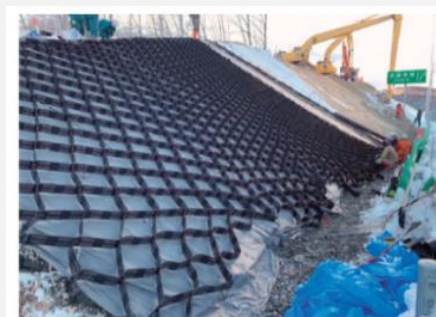
ジオセルはプラスチックシートを立体形成した、ハニカム状土壌安定枠となります。

ジオセルをのり面に設置し、中詰材を充填すること

で、のり面の浸食対策と緑化の両立が可能になります。

コンクリートを使用する工法に比べ、軽量であるため搬送の負荷が軽減でき、CO2 排出の低減に貢献、施工性にも優れております。

集中豪雨などの影響により不安定になっている道路のり面の復旧に貢献いたします。



9. 参考情報

23年3月期第1～第4四半期 連結業績推移（前年対比）

TOKYOink

（単位：百万円）

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		連結会計年度	
	21/4～6	22/4～6	21/7～9	22/7～9	21/10～12	22/10～12	22/1～3	23/1～3	21/4～22/3	22/4～23/3
売上高	10,047	10,114	10,165	10,630	10,803	11,689	10,384	10,971	41,401	43,406
営業利益(損失▲)	284	▲ 90	165	▲ 18	259	186	▲ 32	▲ 98	675	▲ 21
経常利益(損失▲)	350	46	165	100	351	4,665	30	▲ 29	898	4,783
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失▲)	200	40	211	73	268	3,468	45	▲ 1,936	725	1,645

9. 参考情報

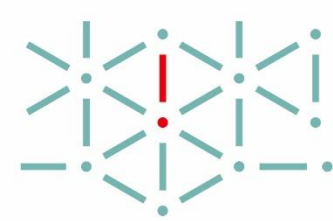
23年3月期 事業別セグメント情報 売上高・セグメント利益(損失▲)

TOKYOink

(単位：百万円)

報告セグメント	売上高				セグメント利益(損失▲)			
	22年3月期	23年3月期	増減額	増減率 (%)	22年3月期	23年3月期	増減額	増減率 (%)
インキ事業	13,197	14,026	+829	+6.3	▲ 186	▲ 673	▲487	-
化成品事業	20,243	21,283	+1,039	+5.1	712	419	▲293	▲41.2
加工品事業	7,871	8,014	+142	+1.8	352	524	+171	+48.6
不動産賃貸事業	89	82	▲7	▲7.9	55	48	▲6	▲12.3
セグメント合計	41,401	43,406	+2,004	+4.8	934	318	▲616	▲65.9
全社費用他 ※					▲ 258	▲ 340	▲81	-
連結営業利益					675	▲ 21	▲697	-

※全社費用は主に事業セグメントに属さない一般管理費



9. 参考情報

23年3月期 セグメント売上高 第1～第4四半期推移（前年対比）

TOKYOink

（単位：百万円）

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		連結会計年度	
	21/4～6	22/4～6	21/7～9	22/7～9	21/10～12	22/10～12	22/1～3	23/1～3	21/4～22/3	22/4～23/3
インキ事業	3,055	3,243	3,191	3,410	3,636	3,896	3,313	3,476	13,197	14,026
化成品事業	5,102	4,937	4,905	5,219	5,096	5,635	5,138	5,490	20,243	21,283
加工品事業	1,866	1,911	2,046	1,983	2,048	2,136	1,909	1,983	7,871	8,014
不動産賃貸事業	22	22	22	17	22	20	22	22	89	82
セグメント合計	10,047	10,114	10,165	10,630	10,803	11,689	10,384	10,971	41,401	43,406

9. 参考情報

23年3月期 セグメント利益(損失▲)第1～第4四半期推移 (前年対比)

TOKYOink

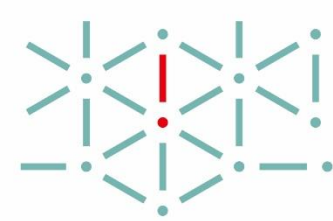
(単位：百万円)

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		連結会計年度	
	21/4～6	22/4～6	21/7～9	22/7～9	21/10～12	22/10～12	22/1～3	23/1～3	21/4～22/3	22/4～23/3
インキ事業	▲ 29	▲ 140	▲ 53	▲ 159	▲ 7	▲ 130	▲ 94	▲ 242	▲ 186	▲ 673
化成品事業	264	74	174	52	186	178	87	113	712	419
加工品事業	92	26	90	150	140	190	29	157	352	524
不動産賃貸事業	14	14	14	7	11	12	14	14	55	48
セグメント利益(損失▲)	341	▲ 25	225	50	331	250	36	43	934	318
全社費用他	▲ 57	▲ 64	▲ 60	▲ 69	▲ 72	▲ 64	▲ 69	▲ 141	▲ 258	▲ 340
連結 営業利益(損失▲)	284	▲ 90	165	▲ 18	259	186	▲ 32	▲ 98	675	▲ 21

9. 参考情報 23年3月期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	22年3月期	23年3月期	増減額	増減率 (%)
流動資産	27,516	28,899	+1,383	+5.0
固定資産	19,793	18,897	▲896	▲4.5
有・無形固定資産	14,640	12,584	▲2,055	▲14.0
投資その他	5,153	6,312	+1,159	+22.5
資産合計	47,309	47,797	+487	+1.0
流動負債	16,322	16,498	+176	+1.1
固定負債	5,296	4,033	▲1,263	▲23.9
負債合計	21,619	20,531	▲1,087	▲5.0
純資産合計	25,690	27,265	+1,574	+6.1
(自己資本比率)	53.99%	56.69%	+2.70	-
負債・純資産合計	47,309	47,797	+487	+1.0



9. 参考情報

23年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

TOKYOink

(単位：百万円)

摘要	22年3月期	23年3月期	増減額
I.営業活動によるキャッシュ・フロー(A)	1,428	▲893	▲2,322
II.投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	▲1,040	2,461	3,502
フリーキャッシュ・フロー(A+B)	387	1,568	+1,180
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	39	▲2,014	▲2,054
現金同等物の期首残高	3,161	3,622	+460
現金同等物の期末残高	3,622	3,374	▲248



TOKYOink

東京インキ株式会社

- 本資料は、投資家の皆様に会社内容の理解を深めて頂くための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。
投資に関する決定は、ご自身のご判断と責任において行われるようお願いいたします。

【お問合せ先】

東京インキ株式会社 管理部門 理財部

TEL : 03-5902-7652

FAX : 03-5390-4937

E-mail : tic-ir@tokyoink.co.jp

<https://www.tokyoink.co.jp/>

これからも、彩る世界をあなたと共に

